

「平成31年度全国学力・学習状況調査」の  
結果について

令和元年8月29日（木）

富山市教育委員会

# 目 次

I	本調査の目的	1
II	実施状況	1
III	教科に関する結果の概況と考察	
1	教科区分別平均正答率	1
2	結果の概要	1
IV	本調査結果の考察	
1	教科に関する調査の結果から	
(1)	小学校国語	2
(2)	小学校算数	4
(3)	中学校国語	6
(4)	中学校数学	8
(5)	中学校英語	10
2	児童生徒質問紙調査の結果から	12
3	学校質問紙調査の結果から	14
V	今後の取り組み	
1	調査結果の取り扱い	16
2	教科に関する調査と児童生徒質問紙調査、及び 学校質問紙調査の関連から見えてきたこと	16
3	課題の改善に向けた指導のポイント	20
	〈資料〉	
1	教科区分別平均正答率の推移	24
2	小学校6年生 設問別結果一覧	27
3	中学校3年生 設問別結果一覧	31
4	児童生徒質問紙調査	37
5	学校質問紙調査	43

## 「平成31年度全国学力・学習状況調査」の結果概要について

富山市教育委員会

### I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### II 実施状況

- 1 実施期日 平成31年4月18日（木）
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学  
（従来のAとBの区分を見直し、両区分を一体的に問う問題）  
 英語（今回が初めての実施）  
 質問紙調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
65校1分校	3,350人	26校1分校	3,376人

### III 教科に関する結果の概況

- 1 教科区分別平均正答率（％）

	小学校6年		中学校3年		
	国語	算数	国語	数学	英語
富山市	70	70	76	65	58
富山県	68	69	76	65	57
全国	64	67	73	60	56

※ 英語は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の平均正答率

- 2 結果の概要

- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は6ポイント、算数は3ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は3ポイント、数学は5ポイント、英語は2ポイント上回っている。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校ではすべての教科で上回り、中学校では、国語と数学が同等で、英語が上回っている。

IV 本調査結果の考察

1 教科に関する調査の結果から

(1) 小学校国語

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

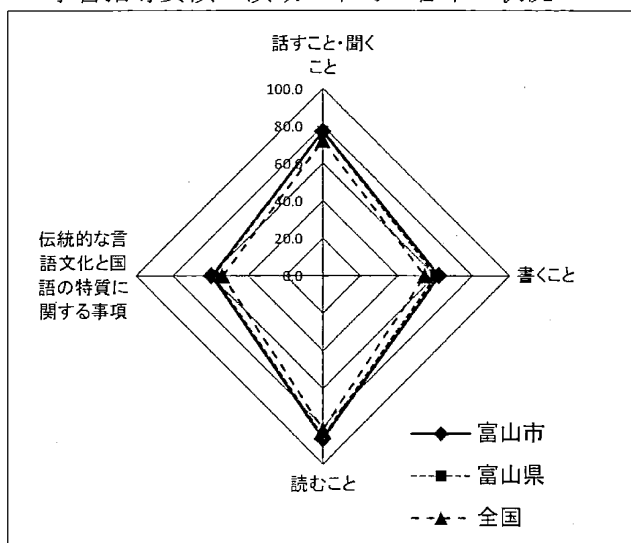
凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	70	68	64

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◎ 77.1	76.7	72.3
	書くこと	3	◎ 62.2	60.3	54.5
	読むこと	3	◎ 86.5	85.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	◎ 59.3	58.3	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	◎ 64.1	62.9	57.6
	話す・聞く能力	3	◎ 77.1	76.7	72.3
	書く能力	3	◎ 62.2	60.3	54.5
	読む能力	3	◎ 86.5	85.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	5	◎ 59.3	58.3	53.5
問題形式	選択式	7	◎ 80.1	79.0	75.1
	短答式	4	◎ 55.1	54.2	48.7
	記述式	3	◎ 64.1	62.9	57.6

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、6ポイント上回っている。また、全ての領域・評価の観点・問題形式において、平均正答率が全国を上回っている。無解答率は、設問12以外において全国平均を下回っている。
- 領域「書くこと」のうち、「ウ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめてかく」に関する設問の平均正答率が38.8%と低い。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

※ 文中に示してある「イ 目的に応じて……読む」「ウ 目的や意図に応じて……かく」などは、P27からの設問別結果一覧の「出題の趣旨」と一致している。



(2) 小学校算数

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

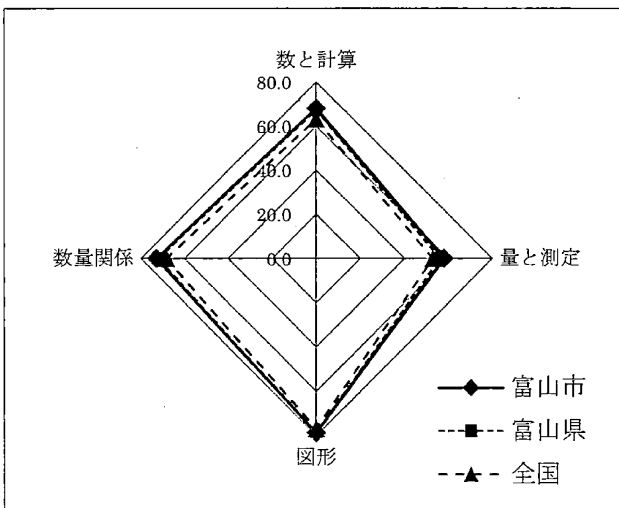
凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	70	69	67

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	7	◎ 68.0	67.2	63.2
	量と測定	3	◎ 57.9	56.0	52.9
	図形	2	◎ 78.6	78.3	76.7
	数量関係	7	◎ 73.0	71.9	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—		
	数学的な考え方	8	◎ 66.0	64.9	62.2
	数量や図形についての技能	4	◎ 79.7	78.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	■ 69.3	69.1	70.1
問題形式	選択式	5	◎ 76.5	75.9	75.7
	短答式	5	◎ 78.5	78.1	72.8
	記述式	4	◎ 52.5	50.7	47.4

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国との平均正答率と比較すると、算数は3ポイント高く、全ての領域や問題形式で、平均正答率は全国を上回っている。
- 短答式問題の平均正答率は、全国より5.7ポイント高くなっている。記述式の平均正答率は5.1ポイント高くなっている。
- 評価の観点のうち、「数量や図形についての知識・理解」に関する平均正答率は、0.8ポイント全国を下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

- 「量と測定」領域の平均正答率は、全国より5ポイント高く、他の領域に比べ最も全国との差が大きかった。特に、設問4(3)の残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことできるかどうかを判断する問題では、全国を7.3ポイント上回った。問題文から場面の状況を読み取り、単位量当たりの大きさを基に、全体の大きさを求める方法を理解した上で、言葉や式で求め方を記述する力や、適切な答えを判断する力が身につけている。  
(設問4(3))
- 評価の観点の中の「数量や図形についての技能」に関する平均正答率が最も高く、全国を6.1ポイント上回った。特に、加法と乗法が混合した、整数と小数の計算の平均正答率は、全国よりも10.2ポイント高かった。授業の中で、計算をする、グラフを読み取る、図形を構成するなどの数学的活動を十分に取入れた成果が表れていると考える。  
(設問2(4))
- 「数量関係」領域の、2010年の市全体の水の使用量が、1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取る設問の平均正答率が88.4%と高く、全国を9.8ポイント上回った。グラフを読み取り、数理的に処理し、考えを書いたり聞き合ったり書いたりする学習を通して、一人一人がグラフを読み取る力を身につけていることがうかがえる。  
(設問2(2))
- 評価の観点の中の「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率は、全国より0.8ポイント低く、69.3%であった。特に、リボン1m分の代金を求める式「 $180 \div 0.6$ 」で、被除数と除数に10をかけて「 $1800 \div 6$ 」としたとき、何m分の代金を求めているのかを判断する設問では、平均正答率が46.6%と低かった。1に当たる大きさを求めるために除法を用いることの意味を理解し、被除数と除数を整数に変えて計算することのよさを実感できるようにする必要がある。  
(設問3(4))
- 減法の計算についてまとめた記述を基に、除法の計算の仕方について式や言葉で説明する設問では、平均正答率が全国を5.5ポイント上回ってはいるものの、36.6%と全設問中では最も低かった。除法では、被除数と除数に同じ数をかけたりわったりしても商は変わらないことについて理解を深め、効率的に答えを求める学習を繰り返し行う必要がある。また、計算して答えを求めるだけでなく、何を求めているのか、どんなことが分かるのかを言葉で説明する学習を取り入れることも大切である。  
(設問3(2))
- 記述式の平均正答率は全国よりも高いが、他の問題形式の平均正答率と比較すると、20ポイント以上低い。引き続き、ペアやグループ学習等、学習形態を工夫しながら一人一人が説明する機会を設け、問題を解決する方法を、式だけでなく言語等を用いて筋道立てて記述する学習を取り入れていくことが大切である。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

3 (4) 一部抜粋

ゆいさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもどした考えをふり返って、次のようにまとめました。

**[ゆいさんがまとめたこと]**

ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数に同じ数をひいても、差は変わりません。このことを使えば、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$  や  $90 \div 18$  のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

**[ことねさんの計算の仕方]**

$$\begin{array}{r} 400 \div 25 = \square \\ \downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4 \\ 1600 \div 100 = 16 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

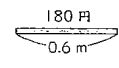
だから、 $400 \div 25$  の答えの  $\square$  は、16です。

$$\begin{array}{r} 90 \div 18 = \square \\ \downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9 \\ 10 \div 2 = 5 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $90 \div 18$  の答えの  $\square$  は、5です。

(4) ゆいさんは、下の問題について考えています。

**問題**

リボンを0.6m買ったときの代金が180円でした。  
このリボン1m分の代金は、いくらですか。

1m分の代金は  $180 \div 0.6$  の式で求めることができます。  
ゆいさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$$\begin{array}{r} 180 \div 0.6 = \square \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 1800 \div 6 = 300 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \text{変わらない} \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $180 \div 0.6$  の答えの  $\square$  は、300です。

$1800 \div 6$  は、何m分の代金を求めている式といえますか。  
下のあからえまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6m分の代金  
い 1m分の代金  
う 6m分の代金  
え 10m分の代金

(● 設問3(4) 正答率46.6%) 資料P3-7

(3) 中学校国語

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

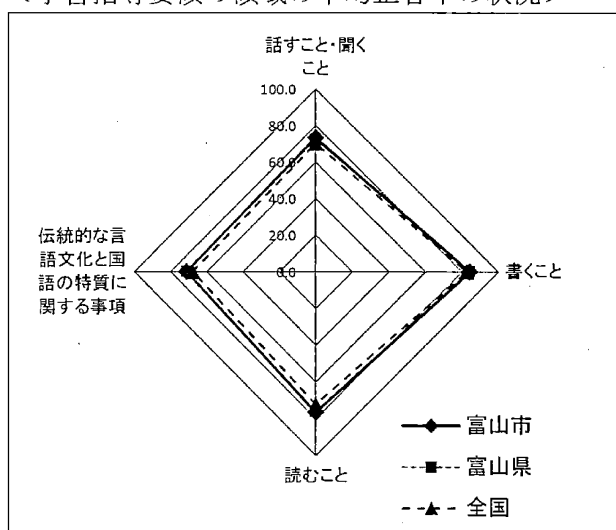
凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	76	76	73

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◎ 73.4	72.6	70.2
	書くこと	2	◎ 84.4	84.2	82.6
	読むこと	3	◎ 76.6	76.1	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	◎ 71.2	71.1	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	◎ 79.3	79.3	76.5
	話す・聞く能力	3	◎ 73.4	72.6	70.2
	書く能力	2	◎ 84.4	84.2	82.6
	読む能力	3	◎ 76.6	76.1	72.2
	言語についての知識・理解・技能	2	◎ 71.2	71.1	67.7
問題形式	選択式	6	◎ 77.2	76.4	73.6
	短答式	1	○ 59.8	60.8	56.8
	記述式	3	◎ 79.3	79.3	76.5

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、3ポイント上回っている。また、全ての領域等・評価の観点において全国を上回っている。
- 評価の観点「言語に関する知識・理解・技能」の封筒の書き方を理解して書く設問では、平均正答率が59.8%で、全国と比較すると3ポイント高いが、他の設問と比較すると最も低い。

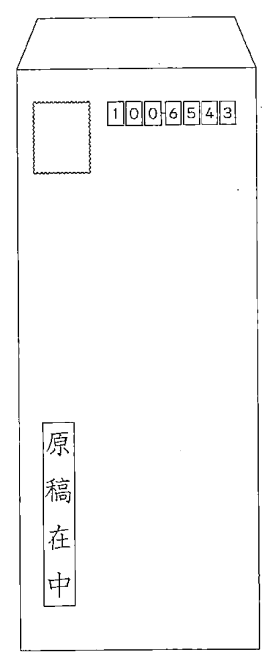
(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)



<考察及び今後の指導について>

- 短歌に表れた作者のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをもつことができるかをみる設問では、平均正答率は全国とほぼ同じであり、93.4%と高い。また、短歌の中の言葉から想像を広げ、感じたことや考えたことを具体的に書く問題の平均正答率が高かった。授業の中で、具体的な言葉を基に情景や心情を想像しながら、読んだり書いたりする言語活動を積極的に取り上げることで、自分の考えを形成する力が高まっていることがうかがえる。 (設問1三)
- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができるかをみる設問では、平均正答率は68.0%で、全国を6.5ポイント上回っている。今後も、文章から情報を取り出す場面の設定を工夫し、目的に応じて文章の中心的部分と付加的な部分を読み分ける力を高めていきたい。 (設問1二)
- 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができるかをみる設問では、平均正答率は62.6%で、全国よりも2.2ポイント高いが、記述式の問題の中では最も低く、無解答率は全領域の中で最も高い。実際の授業では、話合いの学習モデルを示し、話題の整理の仕方について留意する点や話題に沿った発言の仕方を検討する場面を設定するなど、話合いの仕方を具体的に指導することが大切である。 (設問2三)
- 封筒の書き方を理解して書くことができるかをみる設問では、平均正答率が59.8%と最も低い。礼状等を書く場面を設定し、社会生活の具体的な場面を通して、字形を整え、適切な文字の大きさ等を理解して楷書で書くことができるように指導していきたい。 (設問1四)
- 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができるかをみる設問では、平均正答率は全国より0.6ポイント低い86.8%である。文章を推敲する場面においては、誤字・脱字を見直すことに加え、文章が表現すべき目的に応じた論の展開となっているかを検討するよう指導していく必要がある。 (設問3一)

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)



※ 左の枠は「下書き」に使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

条件1 封筒の書き方に注意して楷書で書くこと。

条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

四 あなたは、「沢の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。全国中学生新聞に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書でいねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

三 場面①のA「山下さんは、「どうするか決まっていなから」と「どうして自分の考えを述べようか」と思っています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話そうように書きなさい。

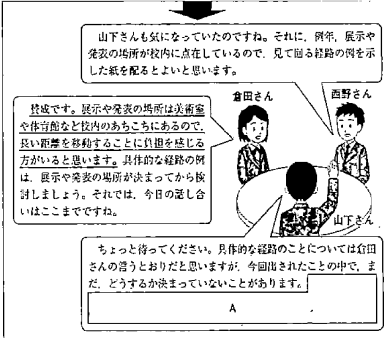
なお、読み返して文章を直したいときは、「本紙で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていなから」と「どうして自分の考えを述べようか」と思っていることを、何らかの明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていなから」と「どうして自分の考えを述べようか」と思っていることを、何らかの明確にして書くこと。

② 第一中学校の生徒会委員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にした文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、「話し合いの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(場面①から場面③は、連続した場面です。)

話し合いの一部



山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

山下さん

倉田さん

西野さん

山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりだと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていなからがあります。

A

(●設問1四 正答率59.8% 無解答率4.7%)  
資料P9

(●設問2三 正答率62.6% 無解答率6.5%)  
資料P8

(4) 中学校数学

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

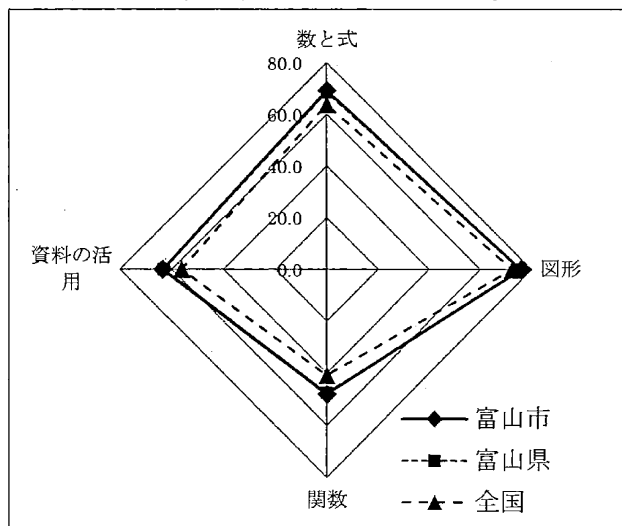
凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	65	65	60

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	数と式	5	◎ 69.2	68.5	63.8
	図形	4	◎ 75.8	75.5	72.4
	関数	3	◎ 48.0	47.6	40.8
	資料の活用	4	◎ 63.5	63.1	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—		
	数学的な見方や考え方	8	◎ 57.4	56.8	51.0
	数学的な技能	3	◎ 71.0	70.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	◎ 74.9	74.7	71.3
問題形式	選択式	5	◎ 66.0	65.7	60.3
	短答式	7	◎ 71.6	71.2	66.6
	記述式	4	◎ 53.9	53.2	47.1

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

○ 全国と比較すると、平均正答率は5ポイント高い。また、全ての領域で、3～7ポイント全国を上回っている。評価の観点では、「数学的な技能」の平均正答率が全国より7.1ポイント高い。

● 領域「関数」の平均正答率が48.0%と、他の領域区分と比較して低い。また、評価の観点では、「数学的な見方や考え方」の平均正答率が57.4%と、他の評価の観点と比較して低い。

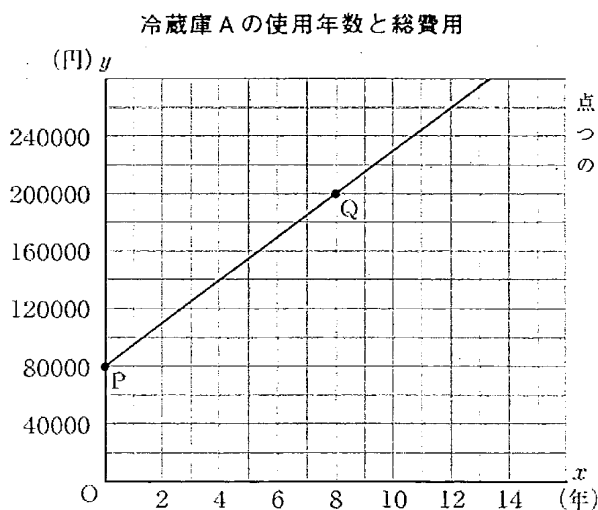
(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

- 領域「図形」の平均正答率が75.8%と高い。「図形」の4問中3問は、評価の観点が「数量や図形などについての知識・理解」に含まれており、知識の定着が図られていると考えられる。
- 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断する設問では、平均正答率は全国と比べて12.5ポイント高い。「半数以上の生徒」を表す代表値が「中央値」であることが、ヒストグラムの特徴とつなげて理解できていると考えられる。(設問8(3))
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかどうかをみる設問の平均正答率が唯一、全国と比べて低い。解答類型を見ると、「直角三角形の斜辺と他の1辺」という誤答を選んでいる生徒の割合が、全国に比べて1.6ポイント高い。図形の中に直角三角形が含まれていることから、「直角三角形の斜辺と他の1辺」という合同条件を選択してしまったと考えられる。証明の前提から結論をどのように導き出すかを考え、表現することができるようにするために、基礎・基本の図形の性質を丁寧に指導し、前提条件からいえることや見つけたことを図に表すなどの学習活動が有効である。(設問7(1))
- 事象の数学的な解釈と問題解決の方法を問う内容について、グラフ上の2つの点のy座標の差を事象に即して解釈する設問の平均正答率が41.8%、問題解決の方法を数学的に説明する設問の平均正答率が42.5%と、他の設問に比べて低い。  
 グラフ上の2つの点のy座標の差を事象に即して解釈する設問では、2つの点のy座標の差ではなく点Qのy座標の値を解答している誤答が45.4%と高い。正答するためには、①2つの点のy座標の差を求める設問であることを読み解く、②点P、点Qの座標が何を表すか理解する、③2つの点のy座標の差が、購入してから8年間の電気代であることを理解するという段階を経ることが求められる。表、式、グラフを相互に関連づけて理解するために、表を式やグラフで表現したり、式を表やグラフで表現したりする操作と合わせて、表、式、グラフで明確になる事象や、それぞれで表すよさを意識して表現することが必要である。(設問6(1))
- 問題解決の方法を数学的に説明する設問では、無解答率が10.8%であった。立式するだけでなく、問題解決の過程を説明する機会を多く設定するとともに、複数の問題解決の過程を比較・評価する学習活動が大切である。(設問6(2))

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

(1) 冷蔵庫Aを購入してx年間使用するときの総費用をy円とします。このxとyの関係を、健太さんは次のような一次関数のグラフに表しました。



このグラフにおけるx座標が0である点をP、x座標が8である点をQとします。点Pのy座標と点Qのy座標の差は、冷蔵庫Aについての何を表していますか。下のAからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 本体価格
- イ 使用年数
- ウ 1年間あたりの電気代
- エ 購入してから8年間の電気代
- オ 購入して8年間使用するときの総費用

(●設問6(1) 正答率41.8%、無解答率0.1%) 資料P10-11

(5) 中学校英語

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

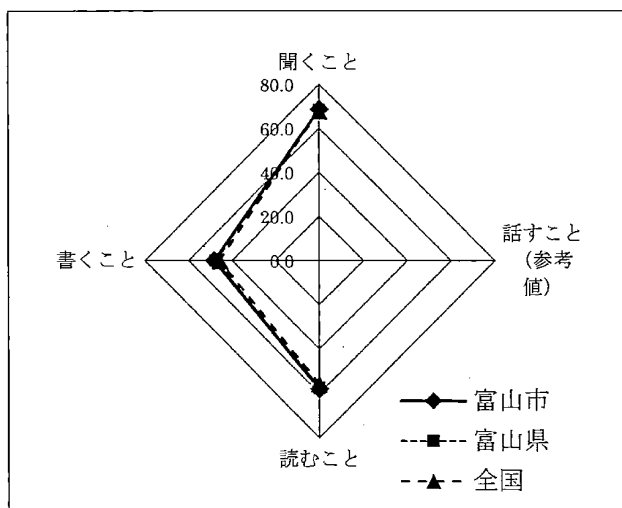
凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	58	57	56

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域	聞くこと	7	◎	68.5	68.3	67.9
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	◎	57.8	57.5	55.6
	書くこと	8	◎	48.2	47.5	45.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	—			
	外国語表現の能力	1	◎	1.8	1.8	1.8
	外国語理解の能力	6	◎	46.2	45.8	44.7
	言語や文化についての知識・理解	14	◎	66.6	66.2	64.7
問題形式	選択式	13	◎	73.7	73.3	71.4
	短答式	5	◎	45.9	45.3	45.2
	記述式	3	◎	8.0	8.0	6.8

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

○ 全国と比較すると、平均正答率は2ポイント上回っている。また、全ての領域等・評価の観点・問題形式において平均正答率は全国を上回っている。

● 領域「書くこと」において、平均正答率が50%を下回っている。

また、聞いて把握した内容について、適切なアドバイスを書いたり、資料を読んで自分の考えを書いたりするなど、記述式の平均正答率が低い。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

- 文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する設問は、平均正答率が88.6%、66.0%と全国と比べて高い。正しい文を書くために、語や文法事項等の知識を身につけることが必要である。  
(設問9(1)①②)
- ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する設問では、正答率が77.4%と全国と比べてやや高い。動詞や前置詞等、読み取りのキーワードとなる語句を正しく理解することができており、概要をとらえる力がついていることがうかがえる。  
(設問5(2))
- 説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する設問の平均正答率は、全国と比べてやや高いものの、他の設問に比べて37.5%と低い。大切な部分をとらえるには、文章を最初から最後まで読み、書き手が最も伝えたいことを判断する力が必要である。目的や場面、状況に応じて、大切な部分をとらえる読み取りについての活動を継続して行い、学習を積み重ねることが大切である。  
(設問7)
- 語や文法事項等を理解して書く設問では、平均正答率が32.7%、37.4%と低く、全国とほぼ同じである。正しく英文を書くためには、日本語と英語の相違点を理解し、動詞の活用形、語順や語法といった文法事項等の知識を活用する必要がある。様々な場面設定において、英語で表現する活動を行い、生徒の表現した文章を丁寧に添削し、訂正させるなど、正しい表現方法に日頃からふれさせる必要がある。  
(設問9(3)②③)
- 聞いたことや読んだことを基にして書く4技能統合の設問は、平均正答率が低く、無解答率が高い状況が見られる。話し手からの依頼、提案などを聞き、適切に応答したり、読んだ後に感想や意見、賛否、理由などを話の内容や書き手の意見をとらえて書いたりする力が求められる。4技能統合の活動を意図的に授業の中に位置づけ、相手が表現した内容に対して、自分の考えを呼応させる活動を積み重ねることが大切である。  
(設問4、8)

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

7 中学生の一郎は、スミス先生 (Ms. Smith) と話しています。次の会話文中の ( ) 内に入る最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Ms. Smith: Ichiro, why don't you read this article? It's interesting.  
Ichiro: Oh, thank you, but it's all in English. That's difficult for me.  
Ms. Smith: This newspaper is for students. Try reading it!  
Ichiro: OK.

[Ichiro reads the article.]

Chimpanzees are one of the smartest animals. They can do a lot of things. How smart are they? A team at a university in Japan found the answer. Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children in some ways.

Few animals can understand *janken*. In *janken*, none is the strongest among *rock*, *scissors*, and *paper*. Learning about the relation among the three is very difficult.

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study, they got the answer to the question: "How smart are chimpanzees?"

[A few minutes later]

Ms. Smith: What is the most important point in this article?  
Ichiro: ( ).  
Ms. Smith: Right. That is the main point.

- 1 Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children
- 2 Few animals can understand *janken*
- 3 The team showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees
- 4 The team found that children could learn *janken* when they were about four years old

(● 設問7 正答率37.5% 無解答率0.8%)  
資料P12-13

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

①

②

③



- (● 設問9(3)② 正答率32.7% 無解答率8.9%)
  - (● 設問9(3)③ 正答率37.4% 無解答率8.8%)
- 資料P14

## 2 児童生徒質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの

自尊感情等 全国比：平成31年度本市と全国を比較したもの H30比：本市平成31年度と平成30年度を比較したもの ◎は今年度より調査項目になった質問

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H30 比	考 察
1	自分には、よいところがあると思う	小	80.9%	-0.3	-3.8	1,3 「自分には、よいところがあると思う」生徒の割合は全国より高く、児童の割合は全国とほぼ同じであるが、昨年度より減少している。また、「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合は全国よりやや低い。 <u>目頃から子どもの目標に向かって取り組む姿勢や努力の過程を認め励ますとともに、子どもが自己のよさを生かし将来への見通しをもち、自己実現を図ることができるよう、キャリア教育を充実させる必要がある。</u>
		中	76.4%	+2.3	-3.3	
2	将来の夢や目標をもっている	小	82.3%	-1.5	-0.9	
		中	67.3%	-3.2	-0.9	
3	人の役に立つ人間になりたい	小	95.3%	+0.1	+0.1	
		中	94.0%	-0.3	-1.1	

### 規範意識

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H30 比	考 察
4	学校のきまり（規則）を守っている	小	91.9%	-0.4	+2.9	4 「学校のきまり（規則）を守っている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じであり、昨年度よりやや増加している。 <u>今後もきまりについて考えたり振り返ったりする機会を適切に設け、規範意識を高めていくことが大切である。</u>
		中	96.4%	+0.2	+1.9	
5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	97.4%	+0.3	+0.4	
		中	95.9%	+0.8	-0.3	

### 授業での活動

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H30 比	考 察
6	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	小	73.7%	-0.4	-3.4	8,9 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」児童生徒の割合は全国より高い。一方で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、話の組み立て等を工夫して発表していた」児童生徒の割合は全国よりやや低い。 <u>集めた情報を整理・分析する方法を指導し、分かったことを表現する場、考えを交流する場等を工夫するとともに、子ども同士が互いの考えのよいところを認</u>
		中	71.4%	-1.4	-2.9	
7	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	小	76.2%	-1.5	-1.4	
		中	74.3%	-0.5	+2.0	
◎ 8	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う	小	68.0%	+2.3	—	
		中	68.7%	+7.2	—	

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H30 比	考 察
9	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、話の組み立て等を工夫して発表していた	小	57.9%	-4.6	-0.3	<u>め合い、よりよい考えにしていくこと</u> のよさを実感できるように支援していくことが重要である。
		中	53.3%	-2.5	+2.0	

### 家庭学習

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H30 比	考 察
10	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強をしている	小	67.0%	+0.9	-0.4	10 「平日に1時間以上勉強している」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや低い。子どもが主体的に質の高い学習に取り組めるよう、学習方法や内容について発達の段階に応じて指導するとともに、家庭学習の手引きを保護者向けに配付するなど、 <u>家庭との連携を積極的に</u> 行うことが必要である。
		中	65.9%	-3.9	-0.4	
11	普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書をしている	小	45.0%	+5.2	-0.8	
		中	28.6%	+1.6	-4.0	

### 家庭での生活

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H30 比	考 察
12	朝食を毎日食べている	小	96.1%	+0.8	-0.2	13 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じであるが、昨年度よりやや増加している。 <u>今後も継続して、家庭との連携を行い、規則正しい生活習慣の確立、維持に向けて、取り組んでいくことが大切である。</u>
		中	93.6%	+0.5	+0.9	
13	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	79.8%	-1.6	+3.8	
		中	78.2%	+0.2	+2.7	
14	家の人と学校での出来事について話をしている	小	78.8%	+1.4	-0.4	
		中	77.9%	+1.5	+1.8	

### 地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H30 比	考 察
15	今住んでいる地域の行事に参加している	小	82.4%	+14.4	+1.5	15、16 「地域の行事に参加している」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合も高い。一方で「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや低い。 <u>今後も地域や社会に目が向くように働きかけていくとともに、広い視野をもって異文化を理解し、共に生きていこうとする姿勢を育てていく必要がある。</u>
		中	57.0%	+6.4	+2.6	
◎ 16	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う	小	70.8%	+2.2	—	
		中	59.5%	-2.9	—	
17	新聞を週に1回以上読んでいる。	小	21.3%	+2.3	-3.5	17 「新聞を週1回以上読んでいる」生徒の割合は全国よりやや高いが、昨年と比べると、やや減少している。 <u>新聞が身近にある環境づくりに継続して取り組んでいくことが大切である。</u>
		中	16.9%	+4.2	-2.6	

### 3 学校質問紙調査の結果から

肯定的な回答:「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」、または「よく行った」「どちらかといえば、行った」等をあわせたもの

全国比:平成31年度本市と全国を比較したもの

H30比:本市平成31年度と平成30年度を比較したもの(H30年度に調査項目に無かった質問はH29年度と比較)

◎は今年度新しく掲載した質問

#### 児童・生徒指導等

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考察
1	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	小	68.2%	-15.0	-2.5	1, 3「よい点や可能性を評価する取組」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに100%である。今後も、教師は児童生徒一人一人の特性を見極め、取り組みの過程を含めて評価する必要がある。また、教師の声かけが、将来就きたい仕事や夢を考えるきっかけとなる可能性があることも意識することが大切である。
		中	100.0%	+1.4	±0.0	
2	学習規律の維持を徹底した	小	93.9%	-3.0	-3.1	
		中	100.0%	+1.9	±0.0	
3	児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った	小	100.0%	+1.2	+1.5	
		中	100.0%	+1.4	±0.0	

#### 学校運営に関する状況

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考察
4	各種調査等の結果を併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画への反映を行っている	小	94.0%	-1.3	+0.1	5 小・中学校ともに「業務改善への取組」について肯定的な回答をした割合は高く、全国とほぼ同じである。市の指導方針にある「校務支援システムの導入による校務の効率化・情報化」「費用対効果の視点での教育活動全般の見直し」「当たり前からの意識改革」等、校務の効率化を推進するとともに、業務の適正化を図る必要がある。
		中	96.3%	+2.6	±0.0	
5	学校として業務改善に取り組んでいる	小	98.5%	±0.0	-1.5	
		中	100.0%	+2.2	±0.0	

#### 教職員の資質能力の向上

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考察
◎ 6	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている	小	84.8%	-10.1	-2.9	6, 7「学校でテーマを決め講師を招聘すること」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校でかなり低く中学校でやや低い。これまでも行っている「実践的な研修」だけでなく、各学校の実態に応じ、教師が必要感をもって研修に臨めるよう、研修内容や形態等を工夫することが重要である。
		中	88.8%	-2.6	+7.4	
7	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている	小	100.0%	+0.7	+4.6	
		中	96.2%	-0.2	+11.0	

#### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考察
8	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる	小	84.8%	-0.7	+6.4	9, 10「学級活動での意思決定」「特別の教科 道徳(道徳の時間)における指導の工夫」について、肯定的な回答の割合が高い。特別活動における「意思決定や合意形成に向けて話し合う活動」、特別の教科 道徳(道徳の時間)における「道徳的諸価値について考え、話し合う活動」は、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた重要な取り組みとして位置づけられており、一層充実させていく必要がある。
		中	77.8%	-4.8	±0.0	
◎ 9	学級活動の授業を通して今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	小	92.4%	-0.7	—	
		中	85.2%	-6.2	—	
◎ 10	特別の教科 道徳(道徳の時間)において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	小	92.5%	-4.2	+3.1 (H29比)	
		中	96.3%	+3.7	+18.5 (H29比)	



英語科の指導方法（中学校）

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考 察
◎ 11	原稿などの準備をすることなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行った	中	37.0%	-28.1	—	11, 12各項目ともに、肯定的な回答の割合は、全国と比べかなり低い。 身近な話題を選択し、既習事項や実物や写真、動画等を用いて英語で伝え合う機会を増やすことが大切である。 また、校区の小中学校で行われている授業内容の把握するなど、新学習指導要領の完全実施に向けて小中学校の連携は不可欠である。
◎ 12	英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小中学校と行った	中	29.6%	-18.7	—	

特別支援教育

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考 察
13	特別支援教育について理解し、授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った	小	92.4%	-2.7	-1.4	13 「特別支援教育」について、肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに90%以上である。全国と比べて小学校でやや低く、中学校では同じである。今後も関係機関と連携し、各自の特性に応じた支援を行う必要がある。
		中	92.6%	±0.0	+7.4	

小学校教育と中学校教育の連携

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考 察
14	近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	42.4%	-22.6	-3.7	14, 15「小中学校の連携」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小・中学校ともかなり低い。新学習指導要領の完全実施に向け、合同で授業研究を行うなど実践的な取り組みが必要である。
		中	44.4%	-23.6	-18.6	
◎ 15	近隣等の小（中）学校と、授業研究を行うなど合同して研修を行った	小	36.3%	-34.3	-4.0	
		中	51.8%	-24.4	-3.7	

調査結果の活用

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H30比	考 察
◎ 16	平成30年度の自校の調査結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った（学校ホームページ、学校だより等への記載、保護者会等での説明を含む）	小	96.9%	+5.7	-3.1	16「調査結果の公表」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校でやや高く、中学校でかなり低い。また中学校では、H30年度と比較して大きく減少している。保護者や地域の人たちに理解を促すため、調査結果の公表や説明の仕方を工夫していく必要がある。
		中	70.4%	-17.1	-22.2	

## V 今後の取り組み

### 1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から31年度までに実施された10回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

今年度においても、前年度の課題について、改善に取り組んできた結果を分析するとともに、今年度の調査結果より課題を明らかにし、今後の指導の改善を図る。

また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するに当たり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

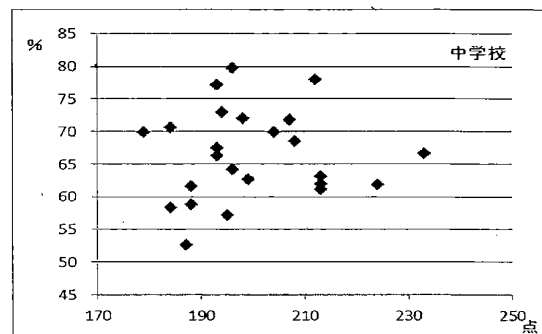
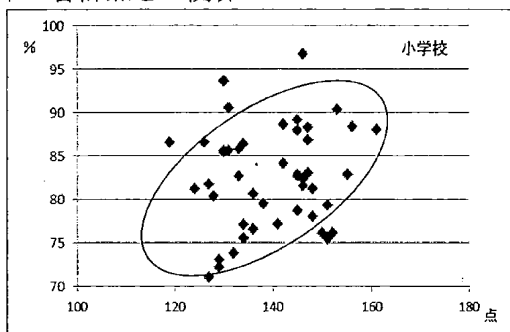
### 2 教科に関する調査と児童生徒質問紙調査、及び学校質問紙調査の関連から見てきたこと

国語、算数・数学、中学校においては加えて英語の学校毎の平均正答率の合計と、その学校の児童生徒質問紙の回答状況についての相関関係を調べた。教科を特定している質問の内容によっては、各々の教科のみの学校毎の平均正答率と、その学校の児童生徒質問紙の回答状況についての相関関係を調べた。また、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問紙の項目に関連した学校質問紙の質問事項についても分析した。以下にそのデータを示す。

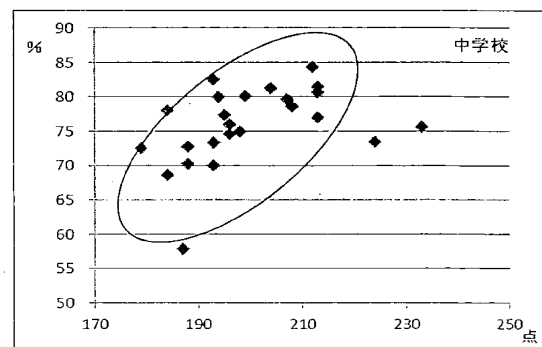
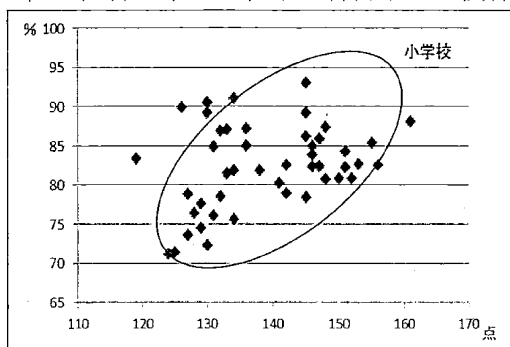
#### <学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問紙の回答状況との相関関係>

##### ①「問題解決的な学習」に関すること

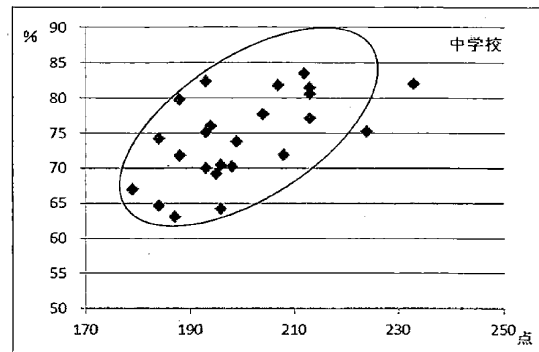
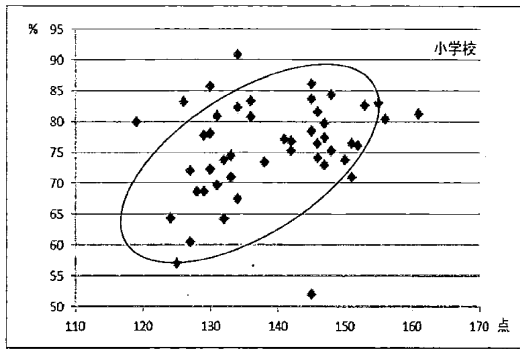
- 児童生徒質問紙 8(8)「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



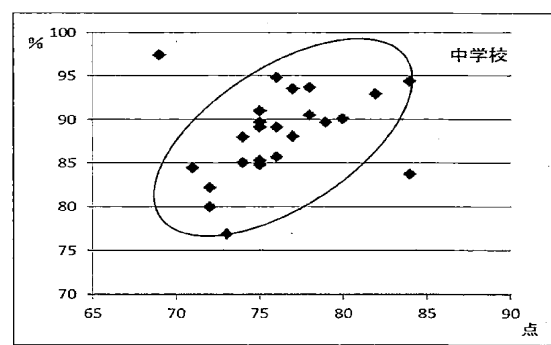
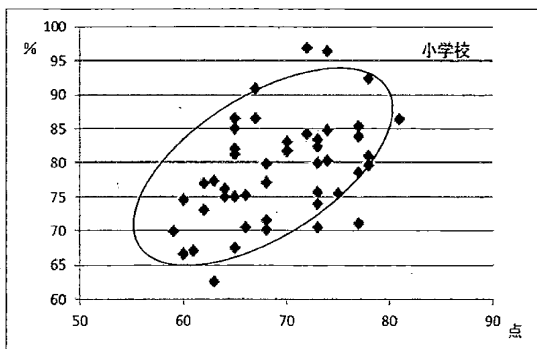
- 児童生徒質問紙 30(33)「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



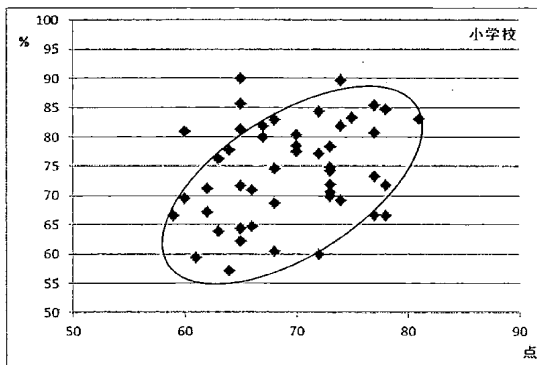
- 児童生徒質問紙 35(37)「授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいたと思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問紙 40(43)「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ」と答えた児童生徒の割合と国語の平均正答率の合計点との関係

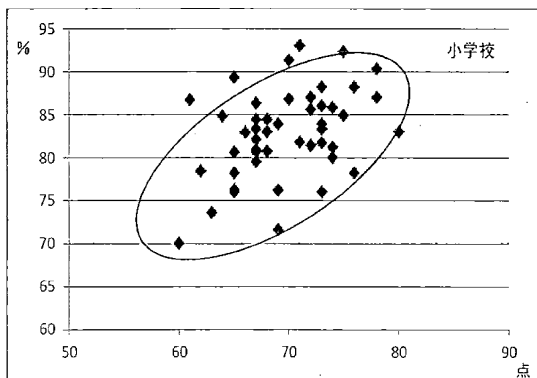


- 児童質問紙 44「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」と答えた児童の割合と国語の平均正答率の合計点との関係



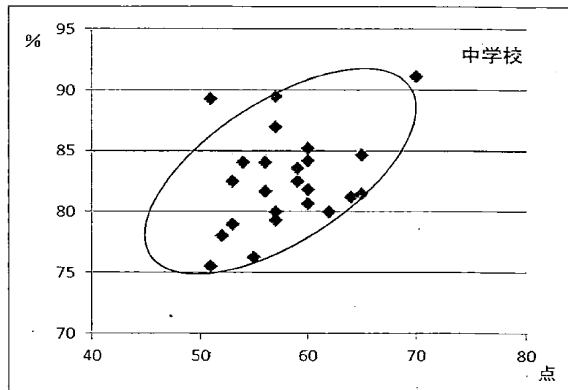
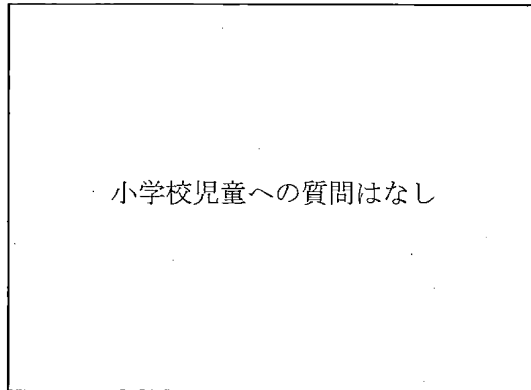
中学校生徒への質問はなし

- 児童質問紙 54「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と答えた児童の割合と算数の平均正答率の合計点との関係



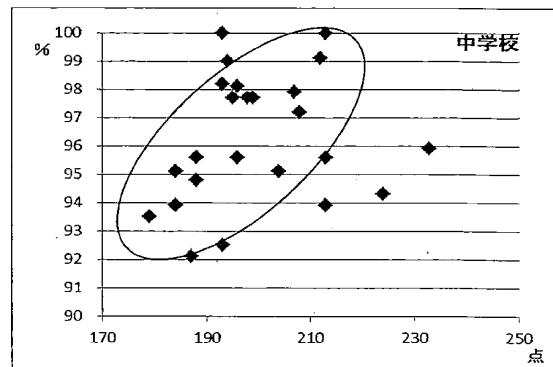
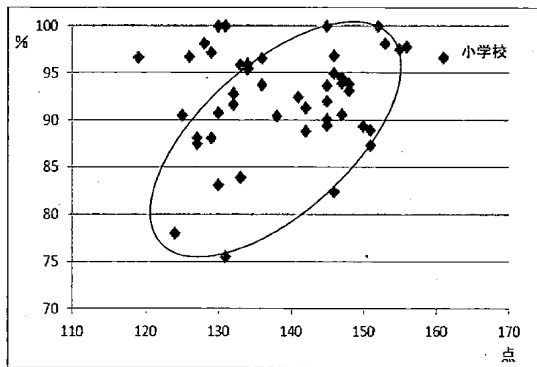
中学校生徒への質問はなし

- 生徒質問紙(57)「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と答えた生徒の割合と英語の平均正答率の合計点との関係



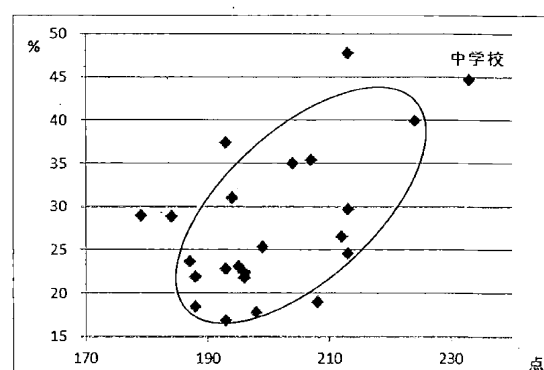
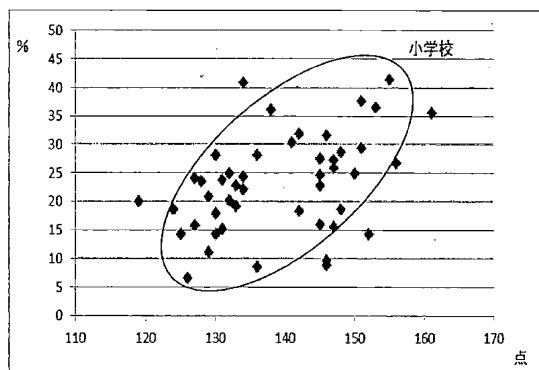
② 「学校のきまり」に関すること

- 児童生徒質問紙 13(13)「学校のきまり（規則）を守っている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



③ 「家庭学習」に関すること

- 児童生徒質問紙 18(18)「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上勉強している」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<データの取り扱いについて>

- ※ 児童生徒質問紙の分析は、データの正確性を優先し、児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。
- ※ 相関係数が0.2以上の場合には、図に楕円の○を書き入れ、相関の特徴を表している。
- ※ ( )内は、中学校の生徒質問紙の番号を表している。

今回の調査から、次の3点の内容が平均正答率に影響があると推察できた。

- ① 「問題解決的な学習」の充実
- ② 「学校のきまりを守ること」に関する指導
- ③ 「家庭学習」の充実

これらの3点については、これまでも各学校において取り組んできた。今後も引き続き、家庭との連携を図りながら授業等の改善を図っていく必要がある。

なお、学校質問紙において、教員の回答と平均正答率に相関関係がみられた項目の一部を以下に挙げた。児童生徒質問紙の結果とも比較して見ていただきたい。

<学校質問紙の各質問項目における、平均正答率の平均>

質問事項	回答			
	よく行った	どちらかといえば行った	あまり行っていない	全く行っていない
11(11)将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	144【26】	138【46】	135【21】	
12(12)学級全体で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた	143【45】	138【44】	104【4】	
13(13)学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した	140【46】	138【43】	134【4】	
14(14)学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った	142【46】	136【47】		
32(33)児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	158【9】	138【68】	132【16】	
35(36)学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	143【27】	139【57】	125【8】	
37(37)習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	147【10】	139【68】	134【14】	
38(38)各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	148【7】	141【64】	131【22】	
42(43)国語の授業において書く習慣を付ける授業を行った	143【27】	138【56】	136【10】	
60(74)家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える	142【44】	139【45】	108【4】	

(表の見方)

質問事項	回答			
	よく行った	どちらかといえば行った	あまり行っていない	全く行っていない
11(11)将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	144【26】	138【46】	135【21】	

( ) は、中学校の学校質問紙の質問番号

回答した学校の平均正答率の合計の平均

回答した学校数

※ 各中学校の平均正答率を、小学校における平均正答率に換算して分析を行った。

### 3 課題の改善に向けた指導のポイント

#### ○ 問題解決的な学習の充実を図る

- ・「学習課題をつかむ」場面の指導の充実（新たな課題）
- ・学習の基盤となる「言語能力の育成」（新たな課題）

本年度の全国学力・学習状況調査の結果から見られた本市の課題は、上記の2点である。これまでの課題と関連づけ、以下にその指導のポイントを挙げる。

#### (1) 「学習課題をつかむ」場面の指導の充実を図ることについて

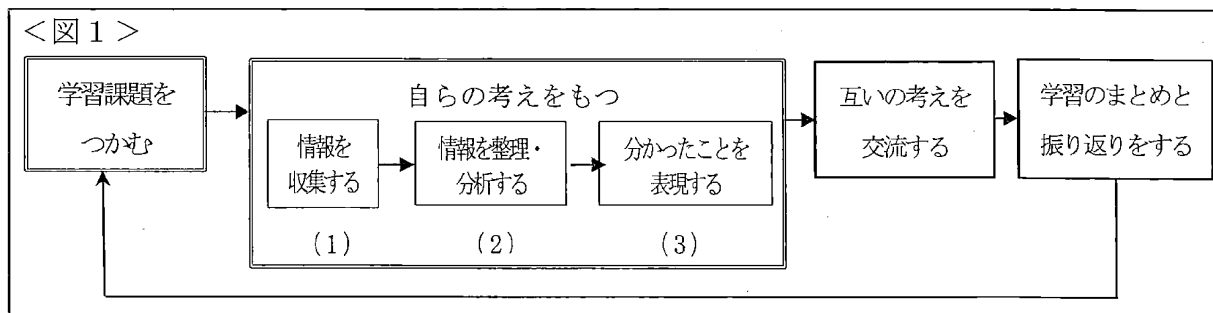
##### ① 児童生徒質問紙の結果から

児童生徒質問紙においては、各教科について「好き」「大切」「役立つ」「活用している」と考える子どもが多く在籍する学校ほど、平均正答率が高い傾向が見られた。これらの質問内容は、「学ぶことが楽しい」「～のために学びたい」「学ぶことで、～のよさがある」など、児童生徒が学習に向かう際の主体性に関わるものである。

問題解決的な学習の充実に向け、児童生徒が主体的に学習に取り組むために、学習への興味・関心や問題意識を高め、自分に引き寄せて考えることができる学習課題を吟味していく必要がある。

##### ② 昨年度までの取り組みから

富山市教育委員会では、「富山市学校教育指導方針」や学校訪問研修会等を通して、課題を解決していく学習過程として、〈図1〉のような流れを示している。



昨年度から、「自らの考えをもつ」過程を細分化し、既習内容や体験から情報を収集する、集めた情報を整理・分析する、分かったことを表現するという活動の中で、自分の考えを可視化することによって課題に対する自分の考えを明確にしていく指導を行ってきた。各学校において子どもがじっくりと学習課題に取り組むことを大切に、それぞれの活動における学び方を丁寧に指導し

てきていることの成果は、児童生徒質問紙における関連質問の回答と平均正答率の相関関係を見ても明らかである。

「自らの考えをもつ」場面の充実は、学習課題の質を高めることと大きな関係がある。今後、更なる高まりを目指すには、より質の高い学習課題を精選して提示することが必要だと考えられる。

## (2) 「学習課題をつかむ」場面の指導を充実させるために


### ① 学習課題の精選を図る

市の学校教育指導方針では、＜図2＞のように、学習課題を設定するポイントを挙げている。これらの視点を基に、児童生徒が「考えたい」「調べたい」と感じる学習課題を精選する必要がある。

例えば、児童生徒にとって切実感のある学習課題、生活や体験に根ざした学習課題、教科の本質に迫る学習課題等を提示することができるよう、児童生徒の実態の適切な把握、広い視野からの教材研究を行うことが大切である。

＜図2 平成31年度富山市学校教育指導方針P.12より抜粋＞

**関連資料① 学習課題をつかむ**



学習のねらいが達成でき、子どもの実態に応じた課題にする。

子どもが学習への興味・関心や問題意識を高め、「考えたい」「調べたい」と感じる課題にする。

**ポイント1** 子どもの学習意欲を引き出す課題

- 子どもにとって、「取り組んでみよう」という意欲が湧く言葉を入れる。
- 子どもに活動を楽しませたり、一見関係のない事柄について考えさせたりしながら、本時のねらいの達成につなげる。

**ポイント2** 本時、何をどのように学習するのか、子どもにとって分かりやすい課題

- 本時のねらいに対応する学習内容を明確に示す。

**ポイント3** 子どもに既習の内容や自分の生活経験とつなげて考えさせようとする課題

- 既習の内容や経験と関連づけて考えさせる。

**ポイント4** 子どもたちの活発な話し合いを促す課題

- 聞き合う際の観点を明らかにし、子どもに友達の考えを聞きたいという気持ちをもたせる。
- 子どもの多様な考えを引き出す。
- 子どもに自分のこだわりや思いを大切にしようという気持ちをもたせる。

**学習課題を必ず明示する！**

- 学習課題は必ず板書し、子どもに授業のねらいと見通しをもたせる。
- 学習課題をノートに書く時間をとり、子どもたち全員に学習課題を意識づける。

### ② 学習の目的を明確にする

今年度の全国学力・学習状況調査においては、日常生活での場面を取り上げ、文脈や状況の中で問題解決する過程を重視した出題が多く、解決の方法や手順、自分の考えの根拠を記述する問題が多いという傾向が見られ

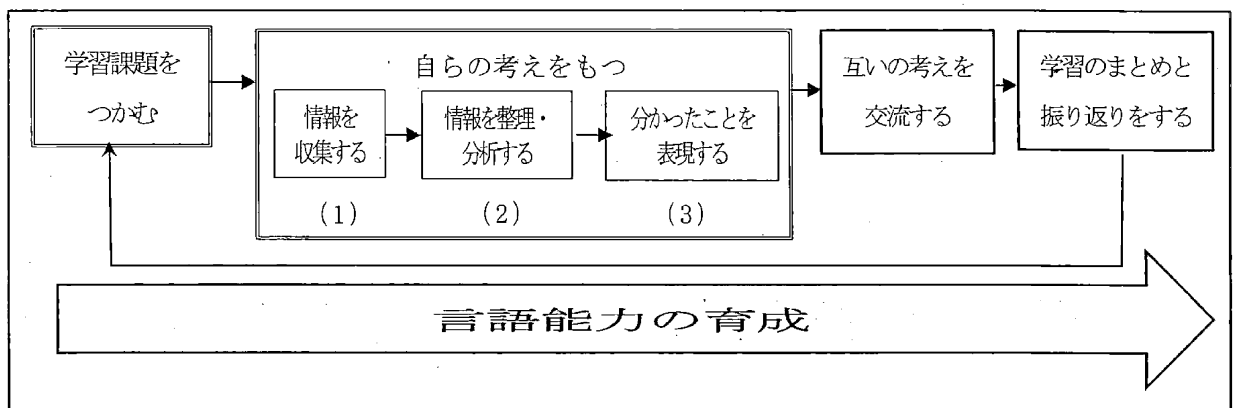
た。複数の資料から目的に合ったものを選んだり、資料の情報を関連させて考えたりすることや、場面の状況の変化に応じて条件設定を再設定することなど、より日常の場面に即して課題ととらえ、解決していくことが重視されているといえる。

また、課題の解決に向けて思考を深めていくためには、児童生徒が目的意識をもって学習に取り組んだり、学んでいることがどのように役立つのかを意識して主体的に学習に取り組んだりするなど、自分のキャリア形成の方向と関連づけることが大切であると考えられる。

授業においては、課題設定を生活の中から導いたり、児童生徒が学習課題を自分の経験や既習内容等とかかわらせてとらえたりすることができるよう、実態に応じた学習課題にすることが求められる。また、きめ細かな教材研究を基盤とし、学習の方向性を見いだすことができる、明確な目的を設定することが必要である。

### (3) 学習の基盤となる言語能力の育成

新学習指導要領では、「言葉は生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである」と説明されている。学習課題の意味を理解する、言語を使って考える、言語で表現するなど、どの教科においても、学習過程の全ての段階において言語の果たす役割は大きい。言語能力の育成の重要性を認識し、それぞれの学習段階において児童生徒の理解の状況を把握しながら、きめ細かく指導していく必要がある。



また、集めた情報を整理・分析し、分かったことを表現するためには、情報を正確に読み取って論理的に考える力、言い換えれば、各教科の特質に応じたいわゆる読解力を身につけることが必要である。通常、文章として取り上げられる「連続型テキスト」に加え、図・表・グラフなどの「非連続型テキスト」を読み解く力を向上させるために、以下の手立てが有効であると考えられる。



## <手立ての例>

### ア 情報を正しく取り出す

教科の中でも、言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割は大きい。今後も、主語・述語で成り立つ文には、「何（誰）が、どうした」という基本的な構造があることや、修飾語や修飾部を加えた文の意味を正確に読み取るなどの語彙指導を丁寧に行い、読書活動の充実を図るなどしながら、発達に応じた計画的な言語能力の育成が必要である。

また、教科の特質に応じた言語能力を身につけるためには、例えば、グラフの軸の1目盛りがどれだけの大きさなのかに着目するなど、グラフの見方等の基本的な知識・技能を身につけるようにすることが大切である。

### イ 情報を整理・分析するための着眼点を示す

複数の情報を整理・分析するためには、消去法を用いて条件に合致したものを絞り込む、類型化する、相違点を見つけるなどの着眼点が必要である。付箋やヒントカード、具体物等を活用しながら、考えの中心となることとその根拠を関連づけてまとめるよう促していくことが効果的である。

### ウ 聞き手を意識して考えを表現する

児童生徒が「統合・削除」「類型化」「相違点・疑問を見つける」「共通点を見つける」等により情報を整理・分析する中で生まれた考えは、話す、書く等の方法で表現することで明確になっていく。教科の特性に応じ、言葉に加えて図や式、グラフ等を活用して示すことは、「可視化」という点からも、思考を整理することに役立つと考えられる。その際、ペアやグループでの話し合いを取り入れ、聞き手を意識して表現することで、自分の考えの曖昧なところや根拠が明確でないところがはっきりする。このようにして、表現と情報の整理・分析を繰り返すことで、評価しながら読む力、課題に即応して読む力が高まっていくと考えられる。

# 〈資料〉

- 1 全国学力・学習状況調査  
富山市と全国、県との平均正答率の比較
- 2 小学校6年生 設問別結果一覧
- 3 中学校3年生 設問別結果一覧
- 4 児童生徒質問紙調査
- 5 学校質問紙調査

# 1 全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較 (H19~H31)

- ・H19、20、21、25、26、27、28、29、30、31：対象学年全員参加方式で実施。
- ・H22、24：抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
- ・H23：未実施。

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成29年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

## 【小学校6年生】

	国語 A											国語 B											国語 H31
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60	70
市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5	6
市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2	2
富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58	68
県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3	4
全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55	64

	算数 A											算数 B											算数 H31
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57	70
市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5	3
市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2	1
富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55	69
県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3	2
全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52	67

## 【中学校3年生】

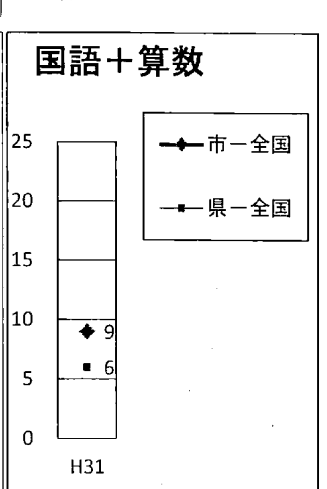
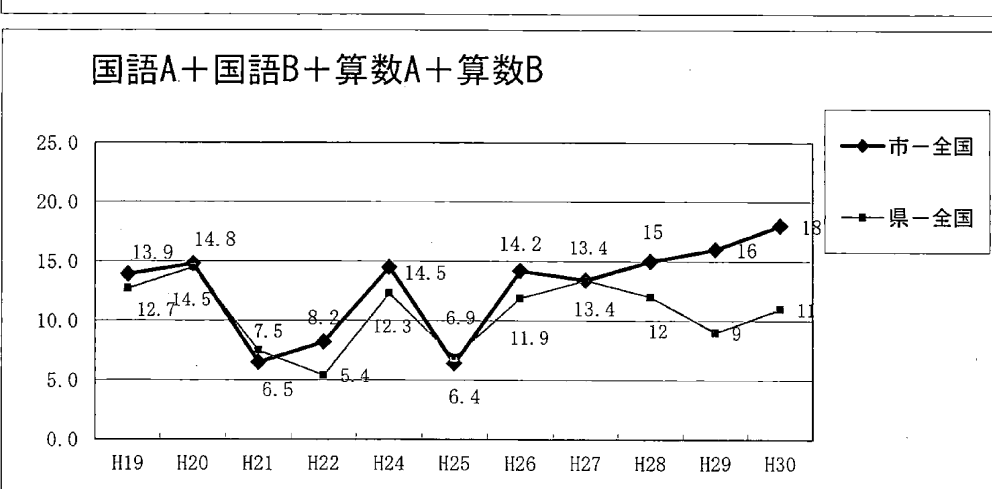
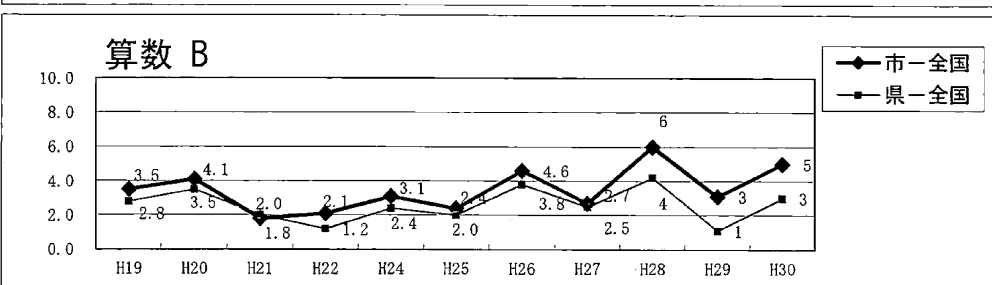
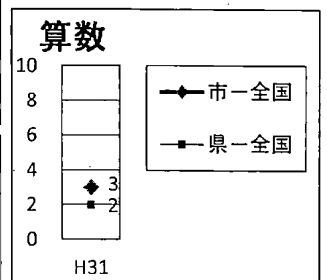
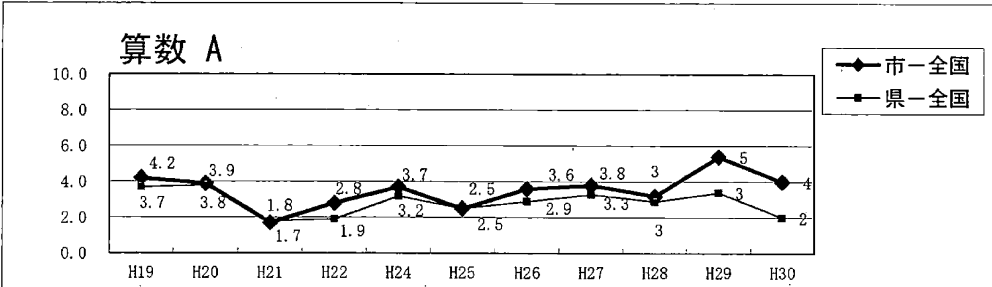
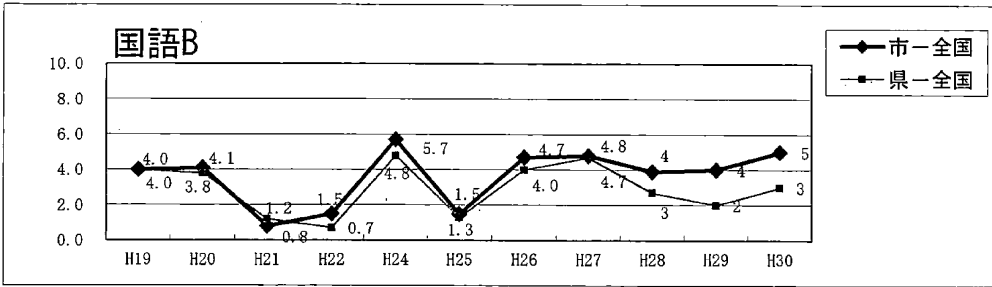
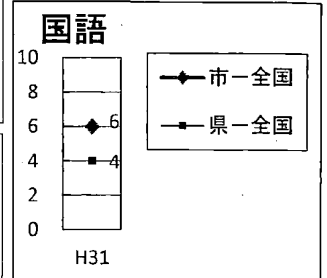
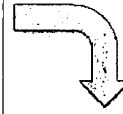
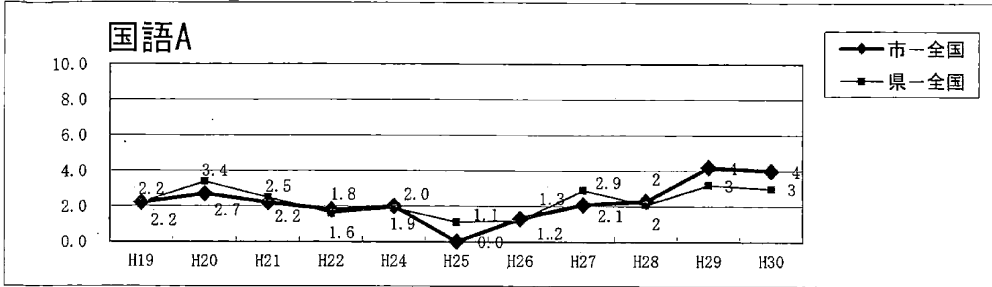
	国語 A											国語 B											国語 H31
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	63	76
市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2	3
市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0	0
富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63	76
県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2	3
全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61	73

	数学 A											数学 B											数学 H31
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51	65
市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4	5
市一県	-1.6	-1.7	-0.1	-1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0	0
富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50	51	65
県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4	5
全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47	60

	英語	
		H31
富山市		58
市一全国		2
市一県		1
富山県		57
県一全国		1
全国		56

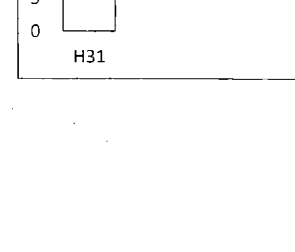
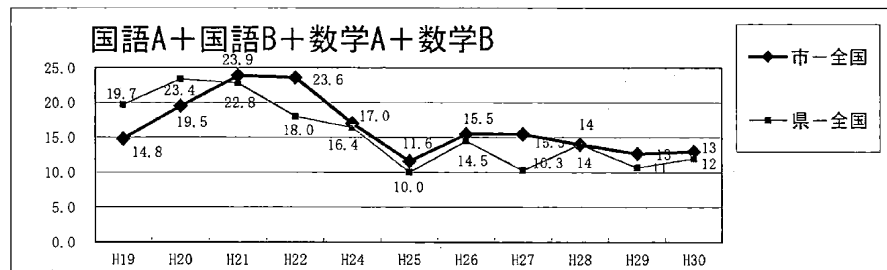
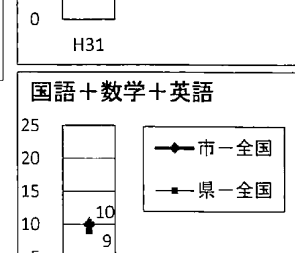
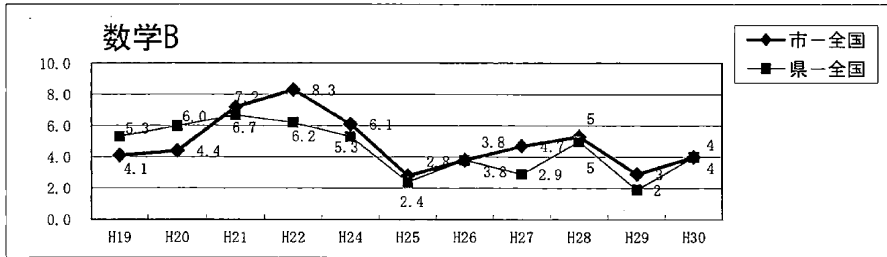
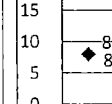
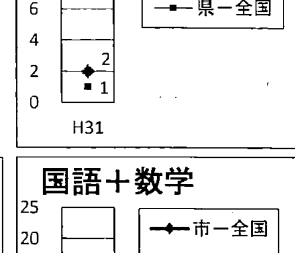
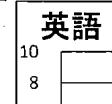
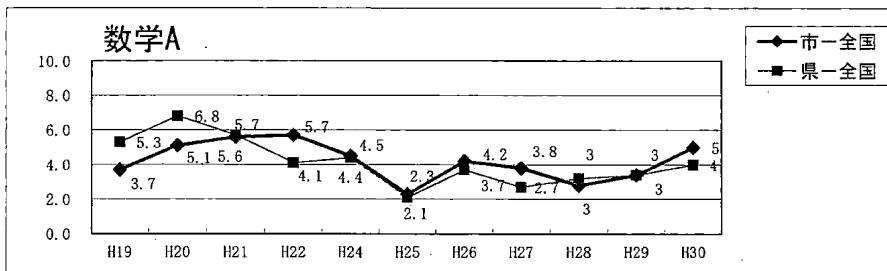
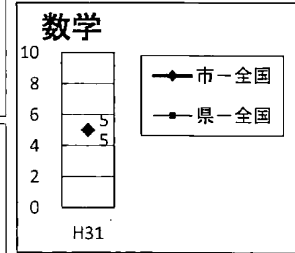
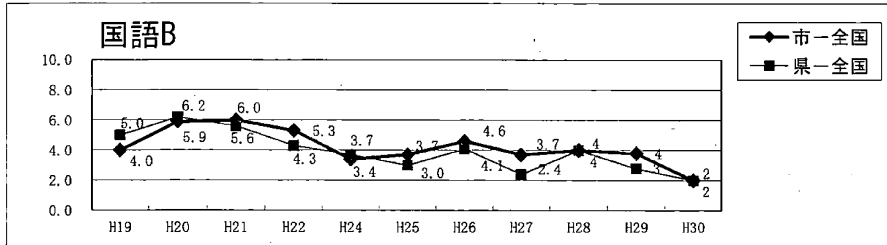
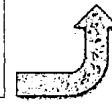
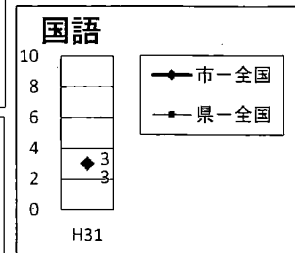
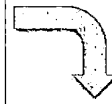
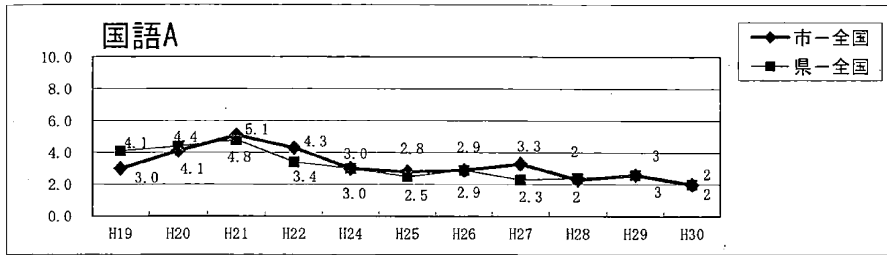
【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差 (%)



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差(%)



2 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点				〔参考〕従来の区分	問題形式			正答率	誤答率	無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語的・文化的・社会的・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力		言語能力	選択式	短答式				記述式
1-1	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で【資料2】と【資料3】をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える		5・6 エ													
1-2	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方があり、どのような目的で用いているか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための配慮の工夫を捉える		5・6 ウ													
1-3	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		5・6 ウ													
1-4 (1) ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「部ア」を、漢字を使って書き直す(調査のたいしよう)				5・6 (1)ウ (ア)												
1-4 (1) イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「部イ」を、漢字を使って書き直す(友達にかぎらず)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1)ウ (ア)												
1-4 (1) ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「部ウ」を、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)				5・6 (1)ウ (ア)												
1-4 (2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「1文」を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文との意味のつながりや考えながら、接続語を使って内容を分けて書く			3・4 (1)イ (ク)												
2-(1)	食べ物の保存についてまとめている「ノートの一部」の「ア」に入る「疑問に思ったこと」の①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしつつ読む		5・6 ウ													
2-(2)	食べ物の保存についてまとめている「ノートの一部」の「イ」に、疑問に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く			5・6 ウ													
2-2	梅干し作りについて「知りたいこと」を調べるために、選んだ本の「目次の一部」から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文庫全体を概観して効果的に読む		5・6 イ													



【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式	正答率	誤答率	無解答率					
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	理解					「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式
1 (1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している			4(1)アイ													富山市 92.1 7.9 0.0	全国(公立) 93.1 6.8 0.1
1 (2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる			4(1)イ 5(1)イ													富山市 65.0 34.7 0.3	全国(公立) 60.3 39.1 0.6
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる			5(1)ア													富山市 46.7 48.0 5.3	全国(公立) 43.9 49.4 6.7
2 (1)	1980年から2010年までの全市の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる																富山市 95.2 4.7 0.1	全国(公立) 95.2 4.6 0.2
2 (2)	2010年の全市の水の使用量が1980年の全市の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	2010年の全市の水の使用量が1980年の全市の水の使用量の何倍か読み取ることができる			4(3)イ													富山市 88.4 11.2 0.4	全国(公立) 78.6 20.4 1.0
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる			5(4)ア													富山市 57.0 41.7 1.3	全国(公立) 52.1 45.9 2.0
2 (4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 \div 0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる			4(5)ウ													富山市 70.3 29.0 0.7	全国(公立) 60.1 38.9 1.0
3 (1)	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる			3(2)イウ													富山市 83.3 16.3 0.4	全国(公立) 81.8 17.3 0.9
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめたもの、どのようになるのかを書く	示された計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の場合の計算の仕方に関して成り立つ性質を記述できる			3(2)ウ 4(3)エ													富山市 36.6 55.3 8.1	全国(公立) 31.1 58.1 10.8



【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				〔標準〕 授業の区分		問題形式		正答率	誤答率	無解答率	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	算学的な考え方	数量や図形についての技能	理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式				記述式
3 (3)	被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。	4(3)イ															
3 (4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めているのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	5(3)アイウ			3(1)												
4 (1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる				4(1)												
4 (2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求めるときを書く	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	3(3)イ															
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分以内に着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる	5(4)ア			5(1)ア												

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率	誤答率	無解答率	富山市	全国(公立)
3(3)	被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。	80.3	18.6	1.1	富山市	74.9
3(4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めているのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	46.6	52.3	1.1	富山市	47.0
4(1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる	83.5	15.6	0.9	富山市	82.7
4(2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求めるときを書く	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	70.4	26.1	3.5	富山市	68.6
4(3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分以内に着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる	69.9	28.0	2.1	富山市	62.6

3 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等		評価の観点						問題形式	正答率	誤答率	無解答率					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・態度・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力					言語に関する知識・理解・技能	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題		
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。…第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ		2ウ														富山市 68.5 31.3 0.2	全国(公立) 63.9 36.0 0.1
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える		1イ														富山市 68.0 31.8 0.2	全国(公立) 61.5 38.4 0.1
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの方や考え方について、自分の考えをもつ		1オ														富山市 93.4 5.6 1.0	全国(公立) 91.2 7.1 1.7
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く		1(2)ア														富山市 59.8 35.5 4.7	全国(公立) 56.8 37.6 5.6
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える		1オ														富山市 83.6 16.2 0.2	全国(公立) 80.4 19.4 0.2
2二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝える表現について理解する		1ウ														富山市 73.9 25.8 0.3	全国(公立) 69.7 30.0 0.3
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ		1オ														富山市 62.6 30.9 6.5	全国(公立) 60.4 30.7 8.9
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する		2エ														富山市 86.8 12.8 0.4	全国(公立) 87.4 12.2 0.4
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		1ウ														富山市 81.9 11.9 6.2	全国(公立) 77.8 14.3 7.9
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方理解する		1(1)イ(ウ)														富山市 82.7 16.2 1.1	全国(公立) 78.7 20.1 1.2

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				(参考※) 従求の区分		問題形式		正答率	誤答率	無解答率					
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の理解	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式				記述式				
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の意味について理解している	1(1)ア												富山市	69.8	30.1	0.1	全国(公立)	62.2	37.6	0.2
2	連立二元一次方程式 $y = -2x + 1$ $y = x - 5$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ												富山市	74.7	21.2	4.1	全国(公立)	70.1	24.8	5.1
3	△ABC を、矢印の方向に△DEF まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動を理解している	1(1)イ												富山市	87.7	11.9	0.4	全国(公立)	83.6	15.7	0.7
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、x と y の関係を式で表すことができる	1(1)エ												富山市	59.8	33.2	7.0	全国(公立)	48.9	40.7	10.4
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる	2(1)ア												富山市	78.5	19.5	2.0	全国(公立)	72.8	23.9	3.3
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる	2(1)イ、エ												富山市	41.8	58.1	0.1	全国(公立)	38.8	60.9	0.3
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	2(1)イ、エ												富山市	42.5	46.7	10.8	全国(公立)	34.7	53.7	11.6
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ア												富山市	75.3	20.6	4.1	全国(公立)	75.8	19.0	5.2
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している	2(2)イ												富山市	80.2	19.6	0.2	全国(公立)	77.2	22.3	0.5
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することができる	2(2)ウ												富山市	60.2	27.1	12.7	全国(公立)	53.3	29.1	17.6

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				(参考※)従来区分		問題形式											
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題			選択式	記述式								
8 (1)	読んだ本の冊数と人数の関係をもとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を取ることができる				1(1)ア					○	○	○	○		<p>正答率 誤答率 無解答率</p> <table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>61.6</td> <td>29.6</td> <td>8.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>57.9</td> <td>31.5</td> <td>10.6</td> </tr> </table>	富山市	61.6	29.6	8.8	全国(公立)	57.9	31.5	10.6
富山市	61.6	29.6	8.8																					
全国(公立)	57.9	31.5	10.6																					
8 (2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断を合理的な表現を用いて説明することができる				1(1)イ					○		○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>47.6</td> <td>36.1</td> <td>16.3</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>40.8</td> <td>37.9</td> <td>21.3</td> </tr> </table>	富山市	47.6	36.1	16.3	全国(公立)	40.8	37.9	21.3	
富山市	47.6	36.1	16.3																					
全国(公立)	40.8	37.9	21.3																					
8 (3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決をめだのようなたる代を表現すべきか判断することができる				1(1)ア、イ					○		○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>66.1</td> <td>33.0</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>53.6</td> <td>45.4</td> <td>1.0</td> </tr> </table>	富山市	66.1	33.0	0.9	全国(公立)	53.6	45.4	1.0	
富山市	66.1	33.0	0.9																					
全国(公立)	53.6	45.4	1.0																					
9 (1)	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形を目的を捉えることができる				2(1)イ、ウ					○		○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>63.8</td> <td>29.5</td> <td>6.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>57.4</td> <td>33.1</td> <td>9.5</td> </tr> </table>	富山市	63.8	29.5	6.7	全国(公立)	57.4	33.1	9.5	
富山市	63.8	29.5	6.7																					
全国(公立)	57.4	33.1	9.5																					
9 (2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる				2(1)イ、ウ					○		○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>65.4</td> <td>20.9</td> <td>13.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>59.7</td> <td>22.5</td> <td>17.8</td> </tr> </table>	富山市	65.4	20.9	13.7	全国(公立)	59.7	22.5	17.8	
富山市	65.4	20.9	13.7																					
全国(公立)	59.7	22.5	17.8																					
9 (3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ	概念的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる				2(1)イ、ウ					○		○		<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>72.1</td> <td>26.4</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>69.6</td> <td>28.5</td> <td>1.9</td> </tr> </table>	富山市	72.1	26.4	1.5	全国(公立)	69.6	28.5	1.9	
富山市	72.1	26.4	1.5																					
全国(公立)	69.6	28.5	1.9																					

【中学校 英語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		(参考) 従来の区分		問題形式		正答率	誤答率	無解答率	
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	言語理解の能力	外国語理解の能力	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式				短答式
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)						○	○	○	富山市	91.6	8.3	0.1
													全国(公立)	91.1	8.7	0.2
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)						○	○	○	富山市	89.2	10.7	0.1
													全国(公立)	88.6	11.3	0.1
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)						○	○	○	富山市	72.9	27.0	0.1
													全国(公立)	72.3	27.5	0.2
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)						○	○	○	富山市	64.4	35.5	0.1
													全国(公立)	61.8	38.0	0.2
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(7)							○	○	○	富山市	71.2	28.7	0.1
													全国(公立)	71.8	28.0	0.2
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	(7)							○	○	○	富山市	81.8	18.1	0.1
													全国(公立)	82.0	17.8	0.2
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(7)							○	○	○	富山市	8.2	55.2	36.6
													全国(公立)	7.6	50.1	42.3
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる		(4)						○	○	○	富山市	78.3	21.6	0.1
													全国(公立)	79.4	20.4	0.2
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる		(4)						○	○	○	富山市	77.4	22.5	0.1
													全国(公立)	74.4	25.4	0.2
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる		(4)						○	○	○	富山市	75.0	24.8	0.2
													全国(公立)	73.1	26.5	0.4

【中学校 英語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			(参考) 従来の区分		問題形式		正答率	誤答率	無解答率	
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語理解の能力	外国語表現の能力	言語や文化についての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題				選択式
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる		(6)												<p>富山市: 正答率 64.4%, 誤答率 35.2%, 無解答率 0.4%</p> <p>全国(公立): 正答率 62.9%, 誤答率 36.7%, 無解答率 0.4%</p>
7	テンバジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる		(6)												<p>富山市: 正答率 37.5%, 誤答率 61.7%, 無解答率 0.8%</p> <p>全国(公立): 正答率 32.8%, 誤答率 66.2%, 無解答率 1.0%</p>
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる		(6)												<p>富山市: 正答率 14.0%, 誤答率 62.5%, 無解答率 23.5%</p> <p>全国(公立): 正答率 10.9%, 誤答率 61.2%, 無解答率 27.9%</p>
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる		(7) (4)												<p>富山市: 正答率 88.6%, 誤答率 11.1%, 無解答率 0.3%</p> <p>全国(公立): 正答率 79.9%, 誤答率 19.8%, 無解答率 0.3%</p>
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる		(7) (4)												<p>富山市: 正答率 66.0%, 誤答率 33.6%, 無解答率 0.4%</p> <p>全国(公立): 正答率 58.2%, 誤答率 41.3%, 無解答率 0.5%</p>
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる		(7) (4)												<p>富山市: 正答率 75.7%, 誤答率 21.2%, 無解答率 3.1%</p> <p>全国(公立): 正答率 73.6%, 誤答率 22.0%, 無解答率 4.4%</p>
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる		(7) (4)												<p>富山市: 正答率 29.5%, 誤答率 61.4%, 無解答率 9.1%</p> <p>全国(公立): 正答率 28.9%, 誤答率 58.5%, 無解答率 12.6%</p>
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる		(7) (4)												<p>富山市: 正答率 54.2%, 誤答率 39.7%, 無解答率 6.1%</p> <p>全国(公立): 正答率 53.5%, 誤答率 40.1%, 無解答率 6.4%</p>
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる		(7) (4)												<p>富山市: 正答率 32.7%, 誤答率 58.4%, 無解答率 8.9%</p> <p>全国(公立): 正答率 32.9%, 誤答率 57.8%, 無解答率 9.3%</p>

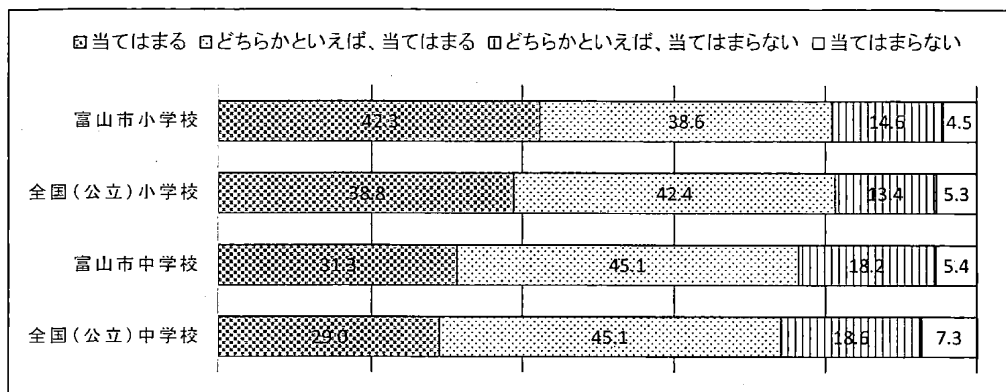
【中学校 英語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				(参考) 採点の区分	問題形式			<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率								
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式		記述式							
9 (3) ㊸	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在形の時制の否定文を正確に書くことができる			(7) (4)										<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>37.4</td> <td>53.8</td> <td>8.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>37.4</td> <td>52.1</td> <td>10.5</td> </tr> </table>	富山市	37.4	53.8	8.8	全国(公立)	37.4	52.1	10.5
富山市	37.4	53.8	8.8																				
全国(公立)	37.4	52.1	10.5																				
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる			(4)										<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>1.8</td> <td>89.8</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>1.8</td> <td>89.9</td> <td>8.3</td> </tr> </table>	富山市	1.8	89.8	8.4	全国(公立)	1.8	89.9	8.3
富山市	1.8	89.8	8.4																				
全国(公立)	1.8	89.9	8.3																				

4 児童生徒質問調査（★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問）

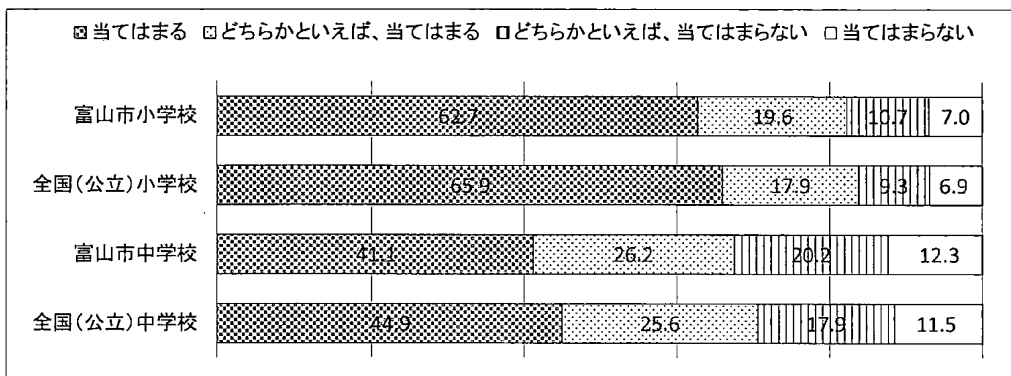
【自尊感情】

1 自分には、よいところがあると思いますか。



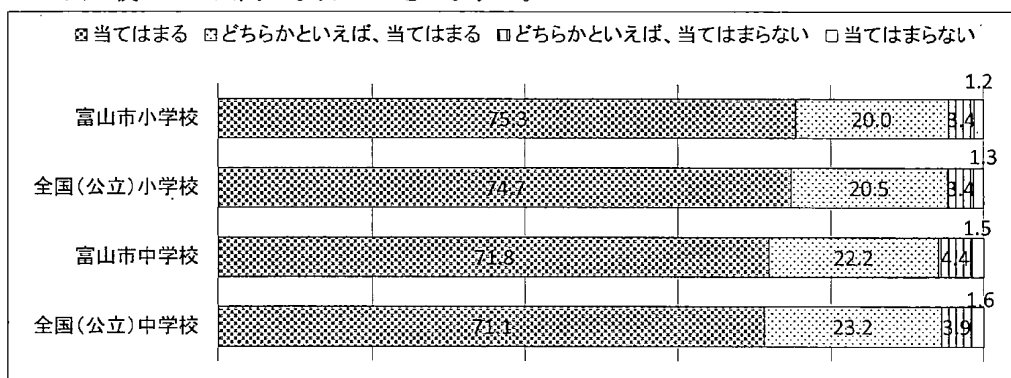
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

2 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」小学校児童の割合は全国とほぼ同じであるが、中学校生徒の割合はやや低い。

3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

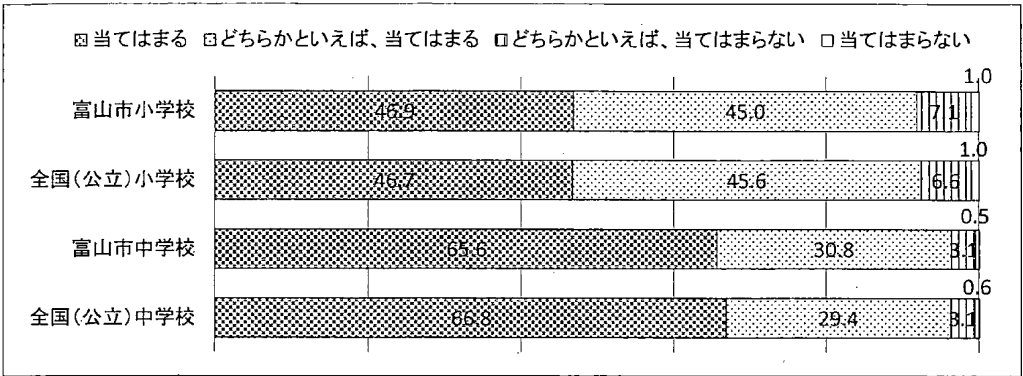


※ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。



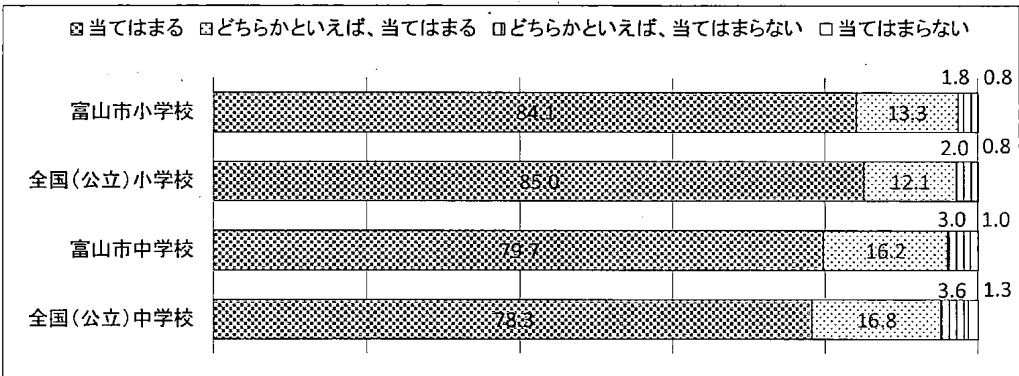
【規範意識】

4 学校のきまり(規則)を守っていますか。



※ 「学校のきまり(規則)を守っている」「どちらかといえば守っている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

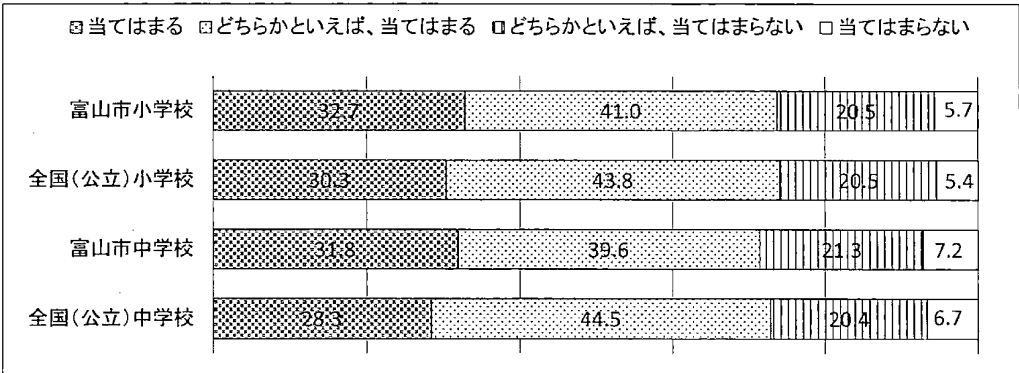
5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



※ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

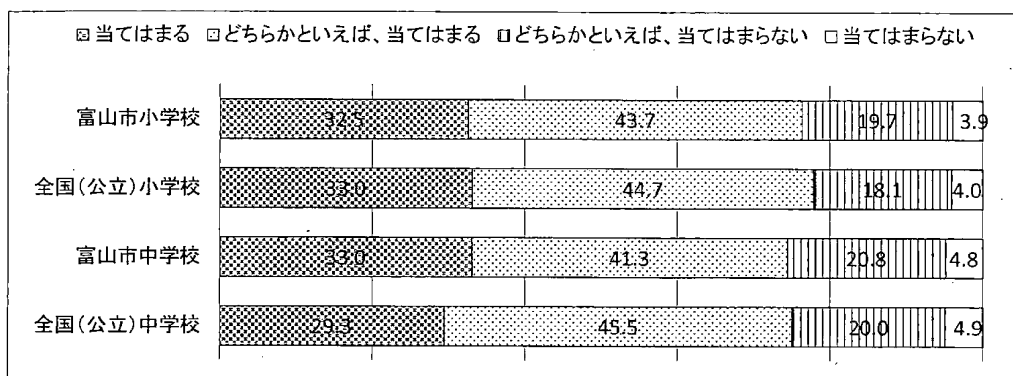
【授業での活動】

6 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか。



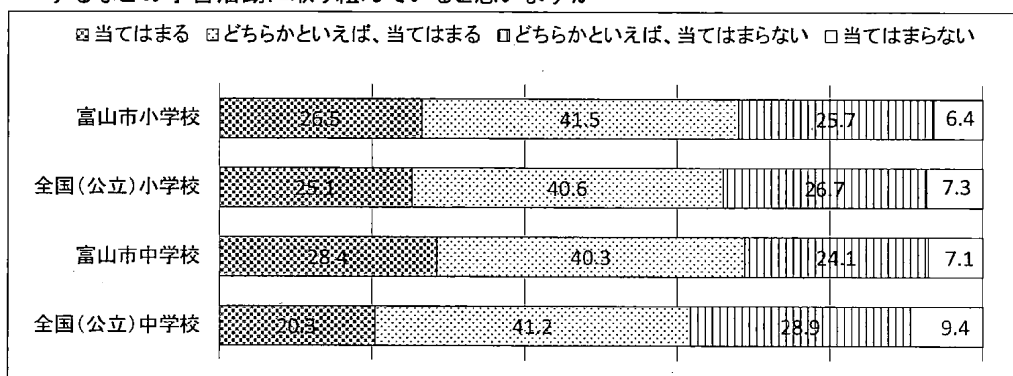
※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思う」「どちらかといえば思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

7 授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



※ 「授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

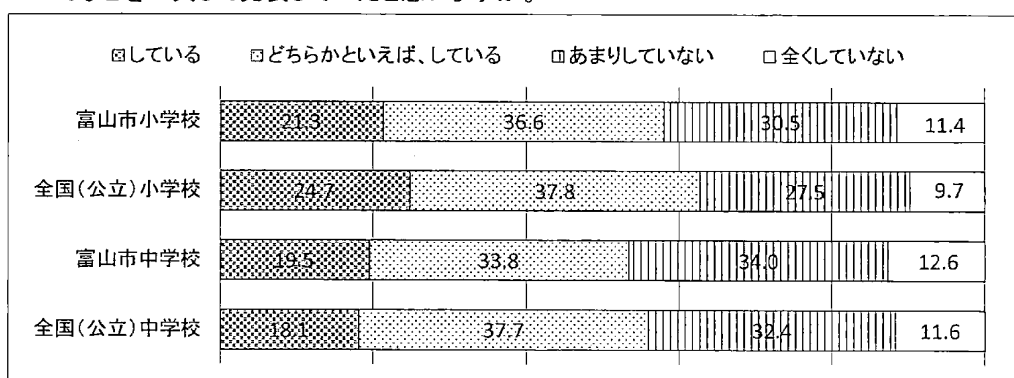
8 ★ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか



※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は、全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は高い。

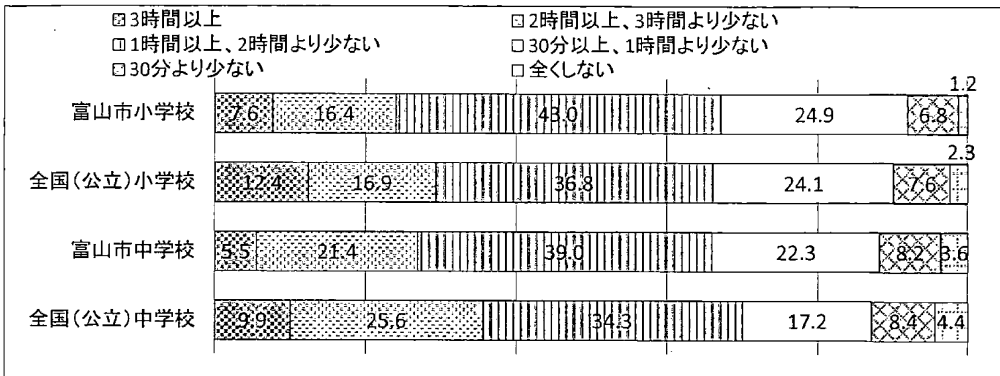
### 【家庭学習】

9 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



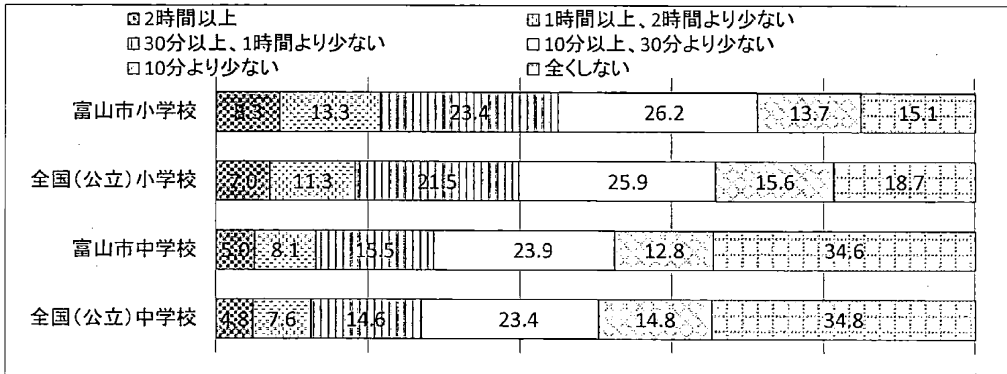
※ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、話の組み立てなどを工夫して発表している」「どちらかといえば、そうしている」小学校児童の割合は全国よりやや低く、中学校生徒の割合はほぼ同じである。

10 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1時間以上勉強している」小学校児童の割合は全国とほぼ同じだが、中学校生徒の割合はやや低い。

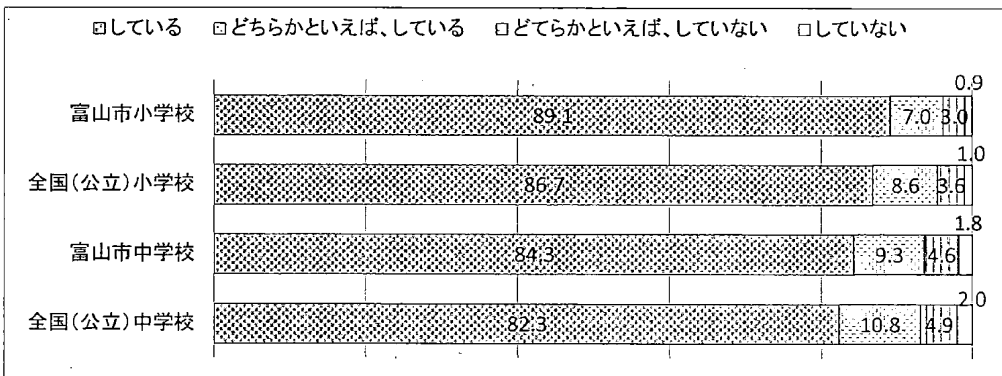
11 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」小学校児童の割合は全国より高く、中学校生徒はほぼ同じである。

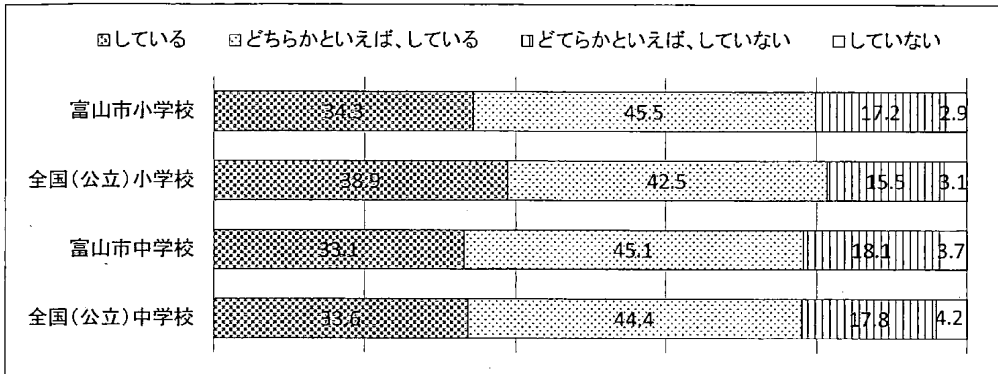
【家庭での生活】

12 朝食を毎日食べていますか。



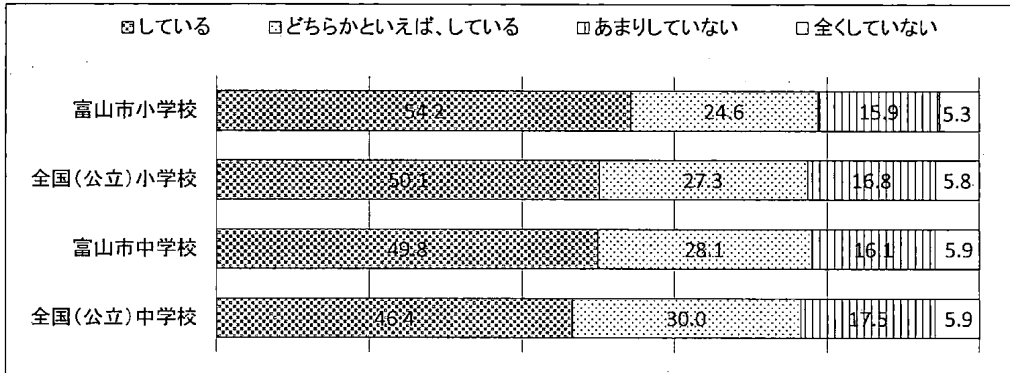
※ 「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば、食べている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

13 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

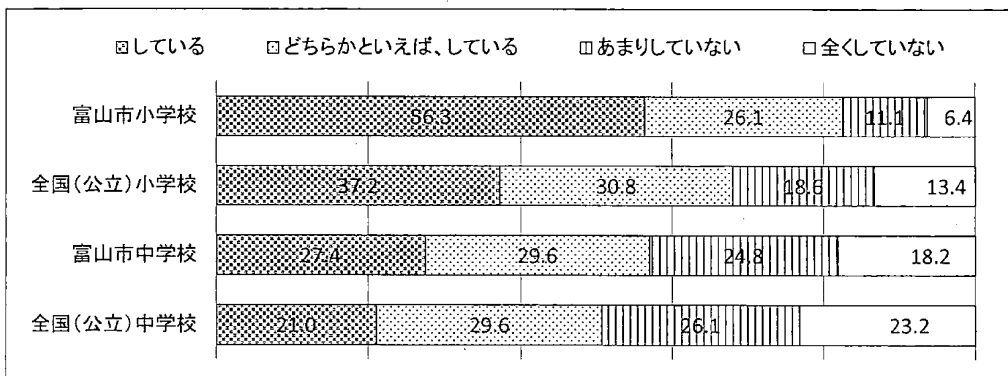
14 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。



※ 「家の人と話をよくしている」「どちらかといえば、している」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

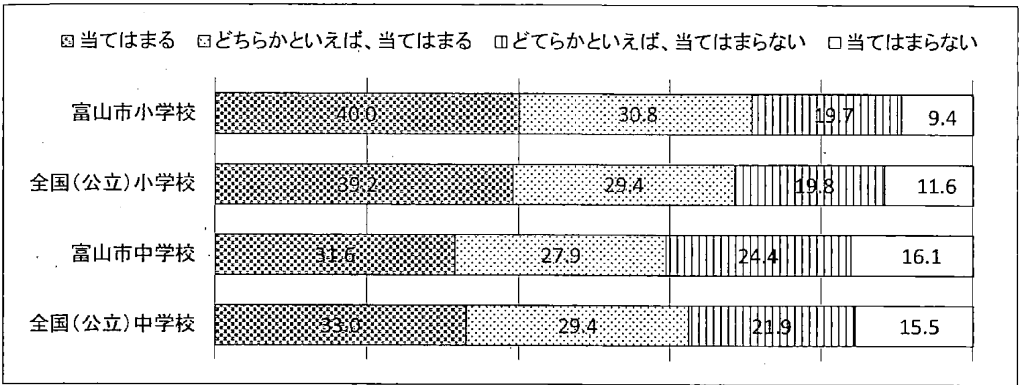
【地域や社会に対する興味・関心】

15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



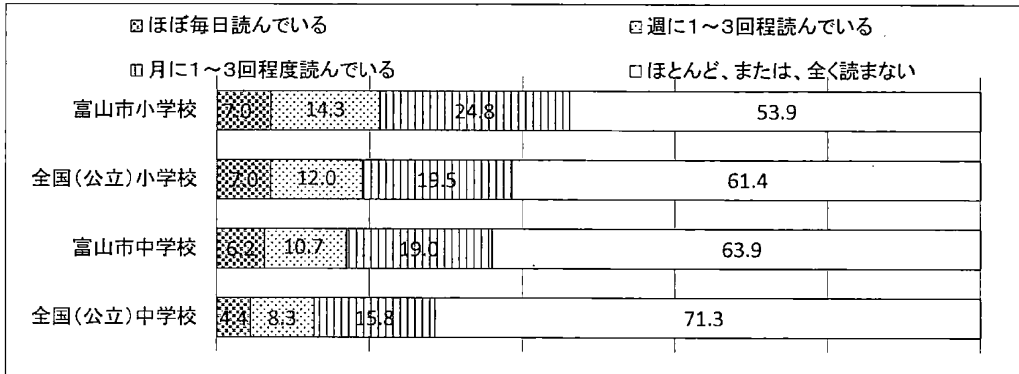
※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」小学校児童の割合は全国よりかなり高く、中学校生徒の割合は高い。

16 ★ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか



※ 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っています」「どちらかといえば、そう思う」小学校児童の割合は全国とほぼ同じだが、中学校生徒の割合はやや低い。

17 新聞を読んでいますか。

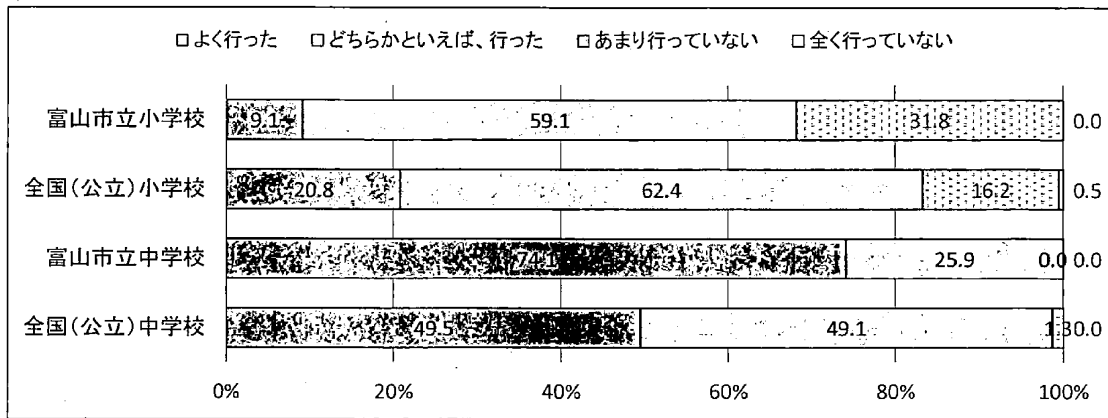


※ 「新聞を週1回以上読んでいる」小学校児童の割合は、全国とほぼ同じだが、中学校生徒の割合はやや高い。

5 学校質問紙調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)  
 ※ その他・無回答は、データに含んでいない。

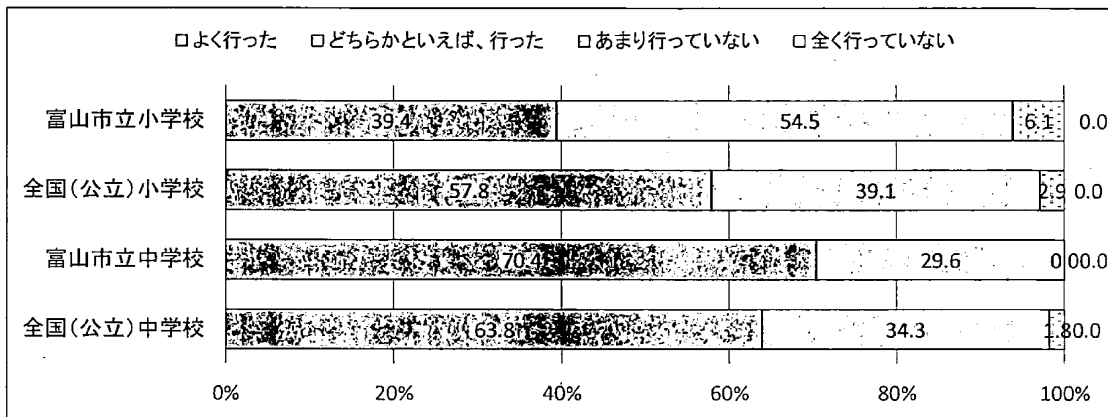
【児童・生徒指導等】

1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした



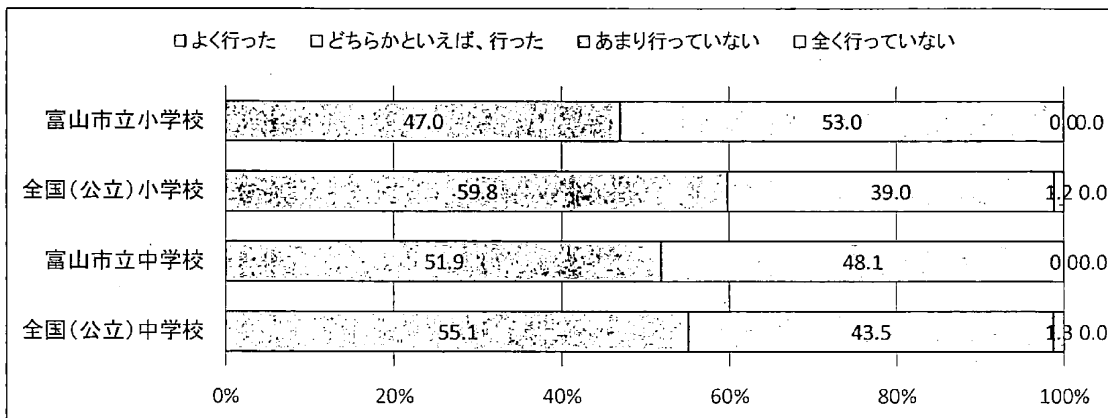
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

2 学習規律の維持を徹底した



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はほぼ同じである。

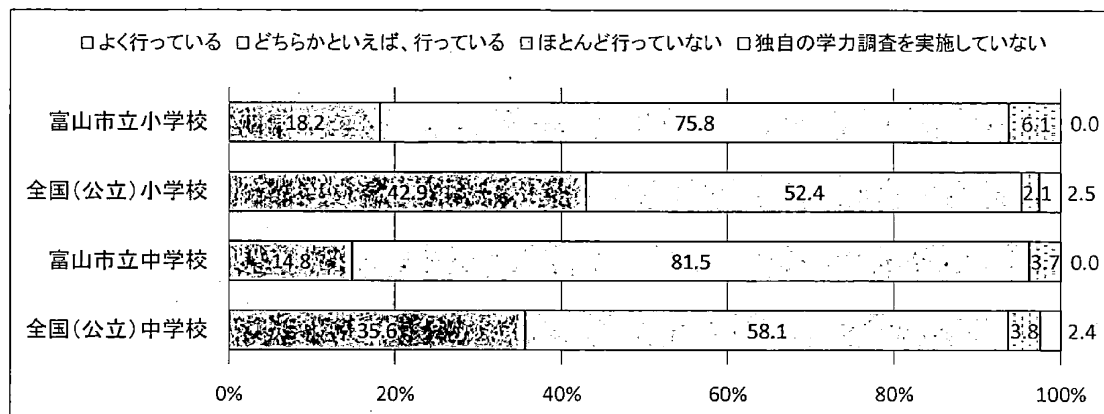
3 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

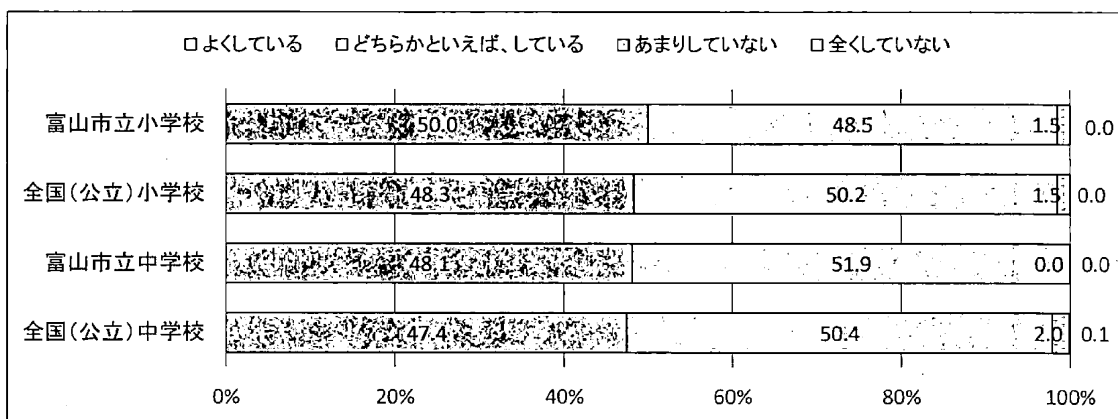
## 【学校運営に関する状況】

- 4 全国学力・学習状況調査の結果を市の学力調査等と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている



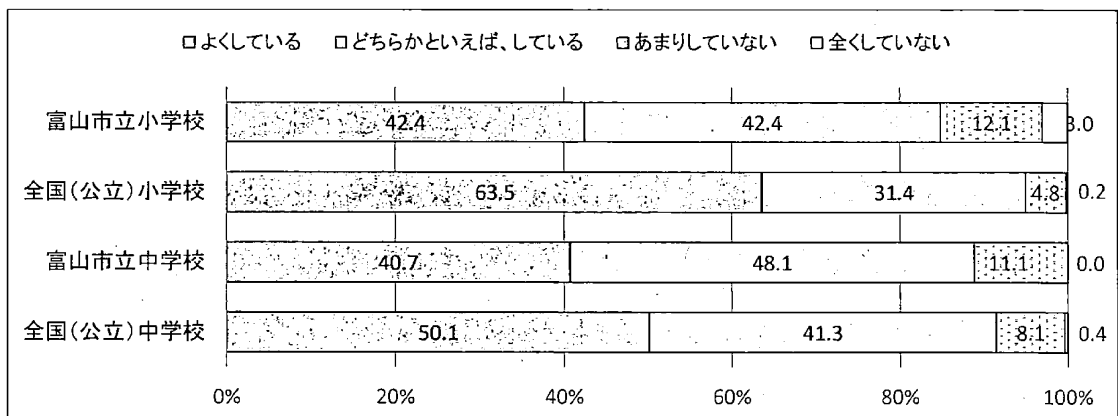
※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

- 5 学校として業務改善に取り組んでいる



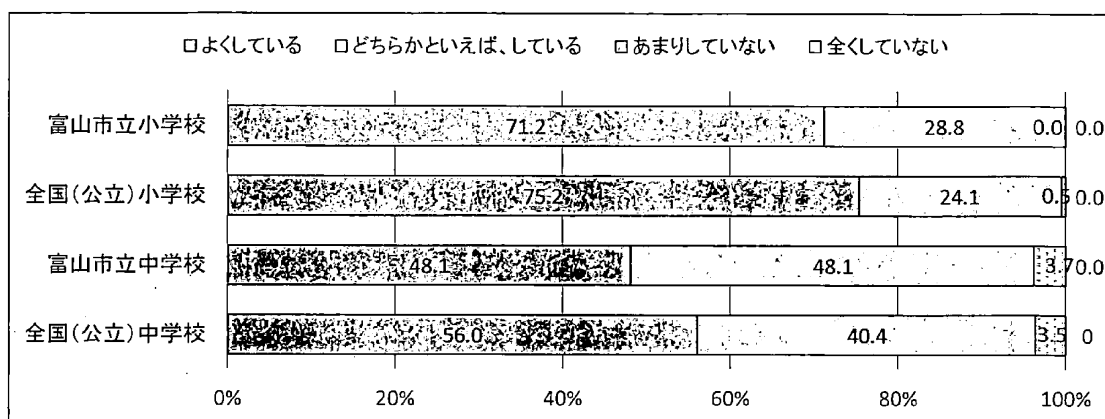
※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

- 6 ◎学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はやや低い。

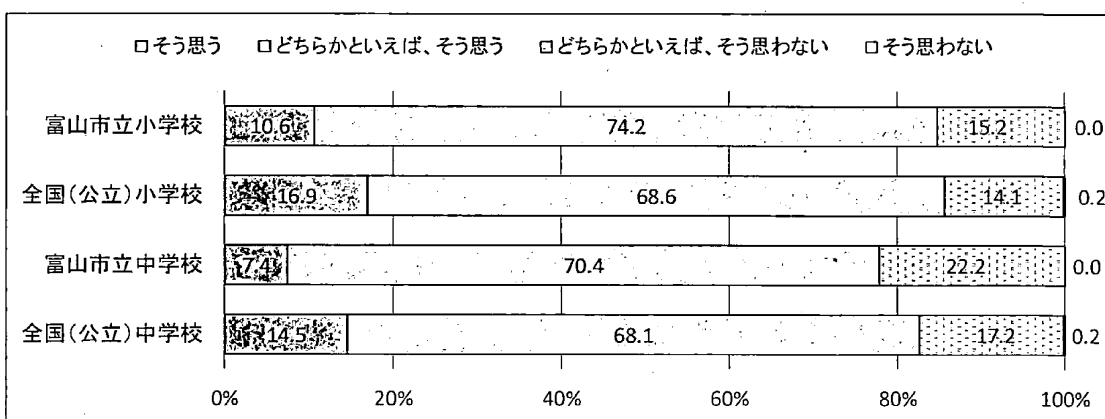
7 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

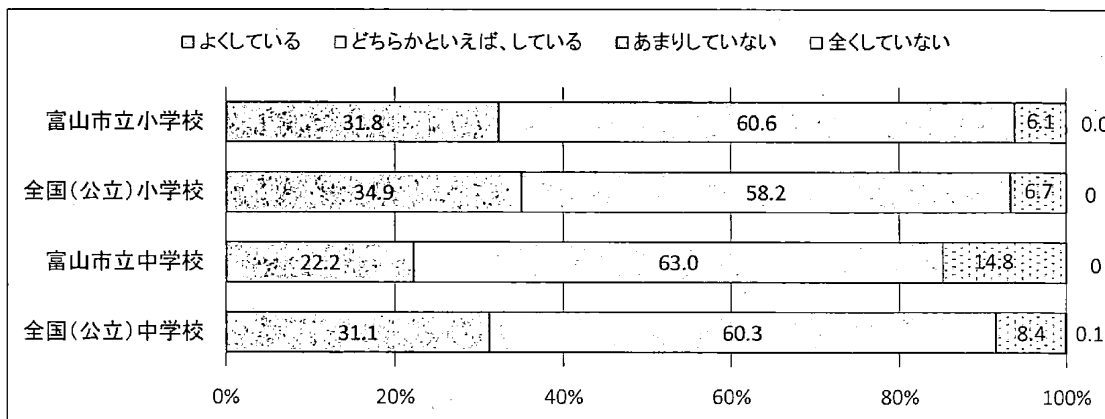
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

8 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや低い。

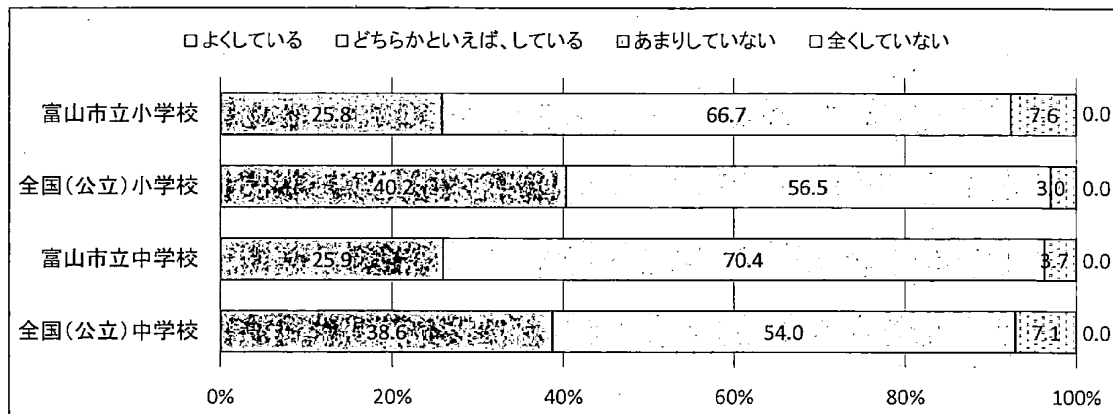
9 ◎学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。



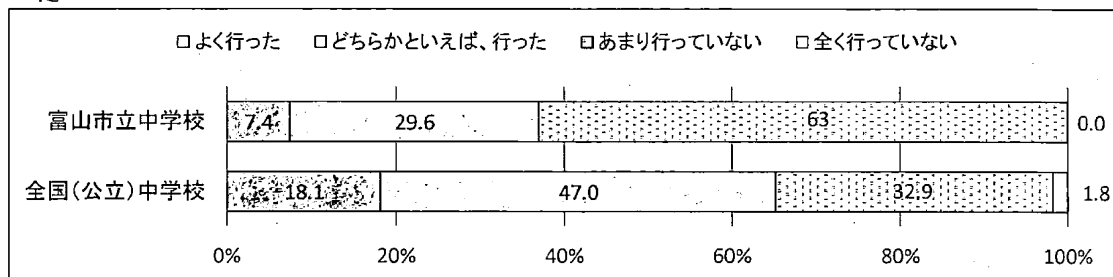
10 ◎特別の教科 道徳(道徳の時間)において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」学校の割合は、全国に比べて、小学校ではやや低く、中学校はやや高い。

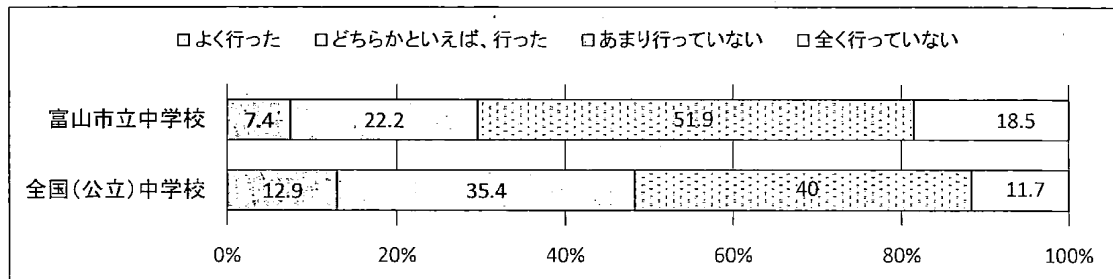
### 【英語科の指導方法(中学校)】

11 ◎原稿などの準備をすることなく(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、かなり低い。(中学校)

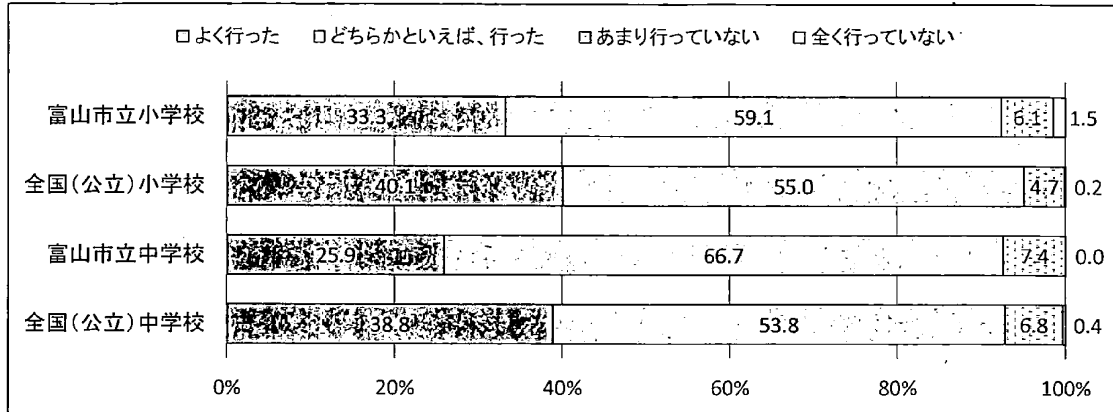
12 ◎英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、かなり低い。(中学校)

## 【特別支援教育】

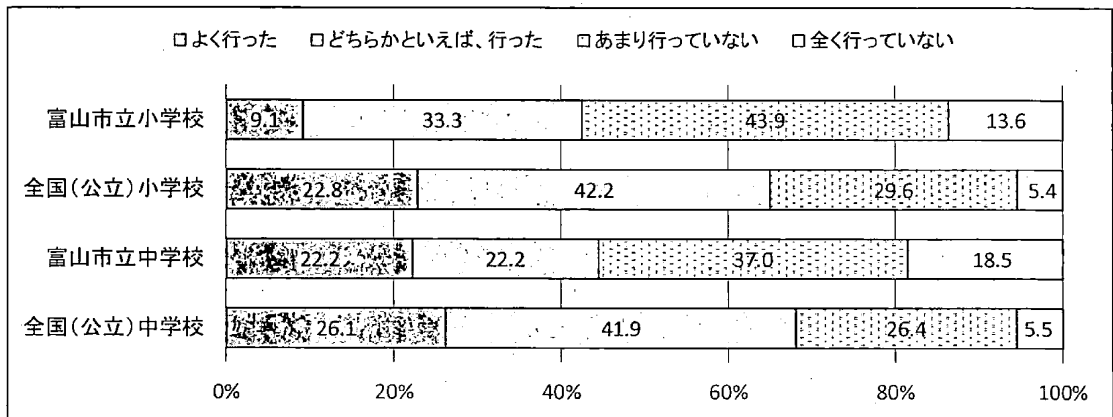
13 特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校は同じである。

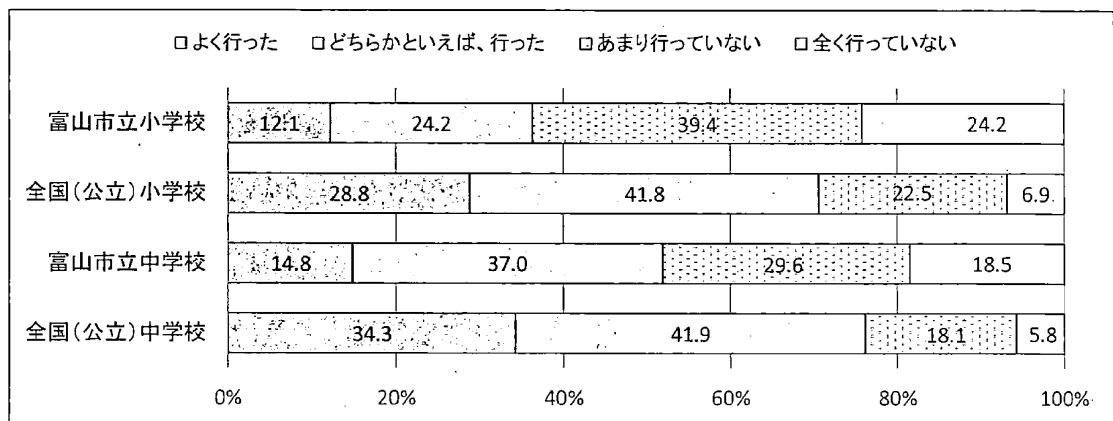
## 【小学校教育と中学校教育の連携】

14 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともかなり低い。

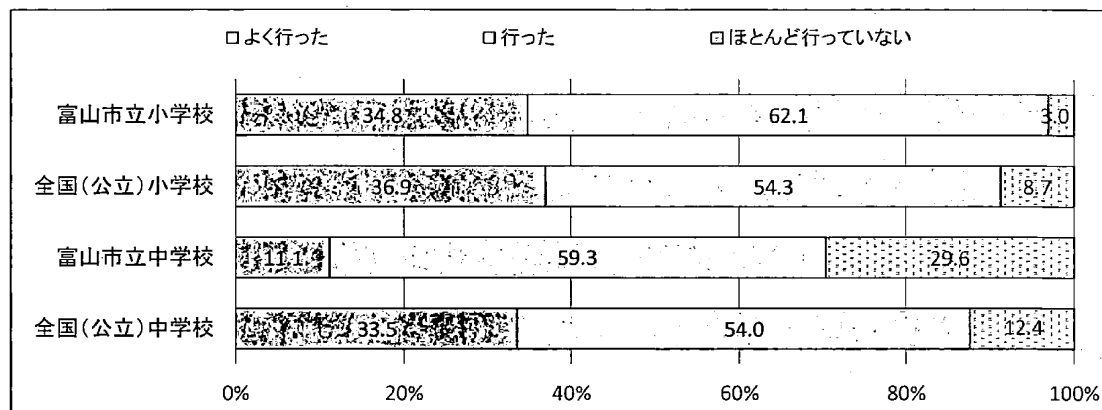
15 ◎近隣等の小(中)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともかなり低い。

## 【調査結果の活用】

16 ◎平成30年度の自校の調査結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った(学校ホームページ、学校だより等への記載、保護者会等での説明を含む)



※ 「よく行った」「行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は高く、中学校はかなり低い。